

310.6  
N77



\* 0002792000 \*

0002792-000

310.6-N77ウ

会務報告

日本外政協会

昭和17年度 (自17年4月至18年3月)

ABA

310.6  
N77

昭和十七年度  
(自十七年四月  
至十八年三月)

# 會務報告

社團法人  
日本外政協會

目次

一、概 觀……………	一
二、第廿二回通常總會……………	一〇
第十一回婦人部總會	
三、評 議 員 會……………	二二
四、理 事 會……………	二二
定款改正委員會	
五、調 査 部……………	二七
六、太平洋問題調查部……………	二〇
七、婦 人 部……………	二七
婦人部研究會	
八、本 部 講 演……………	三六
午餐談話會、特別調查	
委員會、外交懇談會	
九、月 刊 雜 誌……………	三三
外交評論、世界と我等	
十、單 行 本……………	四
十一、會 員……………	五
十二、地 方 講 演……………	五
十三、地 方 支 部……………	六
支部長會議、支部の活動	
十四、學 生 部……………	六
春季大學、懸賞論文、關東	
關西聯合會、各校の活動	
十五、本協會會務日誌……………	二二

310.6  
N77

社団法人 日本外政協會會務報告

昭和十七年度(自昭和十七年四月至昭和十八年三月)

一、概観

本協會は大正九年四月外務省の外郭團體として創立、内外に對し帝國外交の使命達成に協力して來たが、昭和八年東亞政局の變革と共に名稱を日本國際協會と改稱、活潑なる活動を繼續す、昭和十六年十二月八日大東亞戰爭勃發の結果我國向後の外交の重大性に鑑み權威ある民間外交團體として聖戰の完遂に努力し、帝國外交の目的達成に協力すると共に、國民に對し外交及世界事情に關する知識を普及し理解を深めて、輿論の後援を強大にする必要上、昭和十七年七月の通常總會に於て定款を改正すると同時に事業の擴張強化を計り、名稱を日本外政協會と改め倍々外務當局始め外交に關係ある官廳並に各方面と緊密なる連繫を保ち活動を強化しつゝあるが、右改正の定款に掲ぐる本協會の目的及事業は左の如くである。

第一條 本會ハ帝國外交ノ目的達成ニ協力シ且外交及國際事情ニ關スル知識ノ普及ヲ計ルヲ以テ

目的トス

第二條 本會ハ其ノ目的ヲ達成スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一、國際關係事項ノ研究及調査
- 二、大東亞諸問題ノ研究及調査
- 三、外交及國際事情ニ關スル知識ノ普及
- 四、海外ニ對スル我カ國情、輿論及主張ノ紹介
- 五、講演會ノ開催及印刷物ノ刊行
- 六、其他理事會ニ於テ適當ト認ムル事業

本協會の現事業は多岐に亘つてゐるが昭和十七年に於ける事業概況は大體次の通りであつた。

一、地方講演 日本全國に協會から講演班を巡回派遣し縣廳、市役所、商工會議所、大政翼賛會支部等との協力の下に、講師には權威ある有力者を依頼し、各都市に對し講演會及座談會を開催す外、學校、青壯年團其他の他の招聘にも應じ、外交國策を國民の間に徹底せしめ聖戰完遂に資したが、十七年度には東北、北陸地方に派遣し多大の好評を博した。

二、本部講演 協會本部が主催して午餐談話會(毎週一回乃至二回特別會員を案内)、外交評論家懇談會(民間の第一流専門家を會員とし毎回重要問題に付き意見を交換し以て國論を統一し、

進んで外交國策の普及徹底を計るを目的とす)、東京重要商社課長級外交懇談會(月一、二回)、京濱其他附近諸都市に於ける特別講演、同諸團體(地方官公衙、諸學校、商工團體其他)よりの依頼に依る講演會を度々開いたが、右諸會合には外務省、大東亞省、情報局、陸海軍の諸當局及同歸朝者、其他中央官廳當局者、民間の研究家等を聘し、此等會合を通じて各國の動向、事情、政府當局の意向等を民間に反映せしむるに努めた。

三、地方支部 現在全國各府縣に亘つて協會の地方支部があり知事、市長又は商工會議所會頭等を支部長とし、その數は目下二十九箇所、外に支部部會五箇所あるが、なほ増設方申出てゐる所も尠くない。各支部では孰れも地方當局及他團體等と連絡してその地方に必要な事業を行つたが、本部では之等支部、部會と常時連絡を取り前項の地方講演を実施すると共に時々特別に講演を希望して來る向に對し講師を派遣し又直接道府縣市等からの此種申入れに對しても出來る丈その需に應じた。又夏期講習會開催する支部に對しては、權威ある講師を派遣し地方人士の啓發指導に多大の貢獻をした。尙七月の總會の際には東京に地方支部長會議を開いて支部の活動を指導し連絡を密にした。

四、學生部 協會は全國の各大學及専門學校内に教授學生より成る學生部五十八を有し、之れを介して學生の健全にして且科學的なる外交及世界知識を進めしめ、また卒業後に必要な海

外事情の研究調査方法等をも指導した。十七年度には當部は各學内の報國團中に組織化され世界事情研究班の如きものとなつて活動を續けてゐるが、右各班では責任ある主任教授等指導の下に常時、講演會、研究會、討論會、聯合會等を開催したが、殊に大東亞戰爭以來學生の大東亞並に世界問題に對する關心が益々昂揚された結果、大東亞問題特別講座を開催し、又雜誌、新聞の發行をなす向もあり、その活動は非常に活潑となつて來てゐる。従つて新に協會との聯絡を希望し來るものも多數に上つてゐる。協會では理事會の承認を経て本部内に學生部新規定を設けて、機構、活動、目的を明確にし、全校の指導教授中の責任者に委員を委嘱し、別に任期を二年とする常任委員を置き、協會の企畫に參與方を依頼することとなり、最初の常任委員として英、大平、一又三教授を會長から委嘱した。なほ左記諸教授は今回評議員に選ばれた。

早大一又助教授、慶應英教授、中大川原教授、商大大平教授、立教松下教授

【懸賞論文】協會では毎年在學者から廣く懸賞論文を募集し、入賞者には外務大臣賞を授與せられ、重大外交問題に關し、青年學徒をして雄大なる論策を立てしめ研學心の向上と一般學生の世界知識の標準を高むる上に大なる効果を收めてゐるが、十七年度の論題は「世界新秩序論」中立制度の現代的意義」で、審査委員には井口貞夫、大藏公望、安井郁、藤山愛一郎の四氏を委嘱し、應募原稿七十に上り優良論文が多かつた。

#### 【學生大學講座】

學生夏期大學は回を重ねること五回に及んだが、昨年度よりは戦時中開催不便となれるため、三月の休暇を利用して之れに代る學生春季大學大東亞講座を開講したが、本年度は昭和十八年三月上旬一週間に亘り、神田區一橋講堂に開催し、全國大學及専門學校の學生三百餘名の出席があつた。今後開催地は東京の外に大阪又は京都を加へる計畫である。

五、青年部 本部は本年度から設立したものであつて、社會の各方面に活動する青年殊に、海外と關係ある諸事業を營む官衙會社に在職する青年に對し、時代の要請に應ずる外交及世界事情に關する啓發指導を行ふものである。本事業の一部として差當り年二回、各會社其他より選拔される青年職員に對し、當協會の使命に則した特色あり他に類似のなき内容の夜間外交學校を開き大東亞及世界新秩序建設者として必要な知識の普及を計ることとする、又各地の青年團、教育修養團體其他よりの希望に應じ、講師を派遣し啓發を行ふ外、將來は關係當局とも連絡して漸次海外を對手に活動する我國青年職士の活動を國家の外交目的に一致協力後援せしむるに必要な種々の方途を逐次實施し度い意嚮である。

六、婦人部 本協會には現代一流の代表婦人名士多數を網羅する中央婦人部及地方婦人支部があつて、講演會、研究會の開催其他種々の事業を行つて居るが、時局に伴ひ外交、國際問題に對する婦人の關心が著しく高まり、又大東亞諸地域在住の内外婦人に對する我國婦人團體の爲すべ

き事業も頗る多いから、右中央婦人部に於ては多數新人を包容し、之れを有力なる我國の海外的及研究的代表婦人機關となすことを期してゐる。同部には企画委員會、會員獲得委員會、研究委員會、家庭婦人委員會等の設置があり、研究委員會には新人約二十名を選抜して二組に分れ、婦人に關係ある世界重要問題の研究を續けその結果は逐次公表した。尙三月には大東亞婦人講座を開催し百十餘名の参加があり非常な成功を収めた。

七、出版部 本協會の出版事業は何れも公益事業であるから國策への貢獻、國民の啓發、聖戰完遂への寄與を目的として事業を進めてゐる。

【月刊雜誌】「外交評論」 我國に於ける最も權威ある外交専門雜誌たる本誌は關係當局、政治家、専門家、教育家、評論家其他一般有識者に對する高度の啓發又は參考資料として今後益々重要な地位を占めるから、編輯に當つては各種讀者層の要求は充分考慮するが重點を帝國の外交に關する建設的にして權威ある評論、論策、資料の重要根源たらしむることを期した。巻頭欄では半官的論説を掲げ、以て帝國外交方針の闡明に努め、論策欄はこれを増加した上可成解説的論文に代へて政策的建設的論文を載せることとし、出来るだけ新進有爲の評論家、經綸家を紹介しその進出を助長するに力め、資料欄も擴張し、主として當局所持の最新資料を公開し、正確なる材料を世間に供給して一般及専門家の研究參考に資したが、右は戰時下海外通信

の杜絶に伴ひ、一般から外交資料情報公開の要望あることにも鑑み愈々その重要性を加ふる次第である。尙外交隨筆欄も擴張して、多數有益なる短篇的論文を蒐集した。

【月刊雜誌】「世界と我等」 本誌は「外交評論」と異り水準を下げて正確平易に且興味深く時局問題を解明する目的で編輯してゐるが、十七年度中には益々民衆層に固定讀者が激増し、廣く一般人に對し外交及世界事情を説述し、我外交の動向を理解せしめ、國民を結束せしむる上に多大の効果を擧げた。本誌の執筆者は皆匿名としてゐるが、その内容をなす所の資料、解説、論評等は何れも權威あるもので、毎號時局重要問題に付いては關係専門家の力作を載せた。

【單行本】

(1) 條約改正關係大日本外交文書 帝國外交文書の刊行は極めて重要な意義があることは勿論であるが、本文書は外務省調査部監修、日本學術振興會編纂であつて今日迄二巻を出版したが、十七・八年度には明治時代の條約改正關係三冊、會議錄二冊、要綱一冊を公刊する。尙外務省では第九卷（明治九年）まで刊行した『大日本外交文書』は、第十卷以降襲の火災によつて原稿焼失した爲め刊行を中絶してゐたが、其の後引續き編纂中であつて近く編纂済のものより續々印刷に附し本協會で引續き公刊する。

(2) 國際問題に關する各種單行本 十七年度には外務省各局部で作成する多數の國際政治、國

際經濟に關する調書類中、一般に公刊することが有益であると認むるものを始めとして、その他權威ある良書十數冊を本協會で發刊した。本事業は一般の要望も強く、外務省の啓發事業の一としても重要であるから、今後は益々出版數を増加し且迅速に普及を計ることに努める。

**八、調査部** 本協會は從來から權威ある調査研究の一機關として、大東亞諸問題、世界重要外交問題の研究調査を行つて來たが、今後は一層機構を擴大し、主力を我國時局下最も必要と認めらるゝ左記四調査研究事業に集中する。調査の内容は特に外交上の緊急重大なる諸問題を選び、調査の方法も専門的、具體的となし、他の團體や機關の調査事業との重複を避け、本協會が外交問題の攻究に關し有つてゐる獨特の地位と便宜とを利用して、多數の外交界の經驗者、専門家、實際家等と協力して適切なる調査をなし、その結果は有効に利用し以て、當局及民間關係方面の施設に寄與することとし、調査設備を整へ重要問題の研究に従事してゐるが、調査は着々完了し一部は關係方面に配布済となつてゐる。

(一) 外交經濟諸問題 (二) 戰時外交問題

(三) 大東亞諸問題 (四) 資料圖書の蒐集及啓發用調査

**九、太平洋問題調査部** 本調査部は、太平洋諸國民の政治・經濟・社會事情並びに相互關係の調査

研究を本來の目的とし、從來學究的見地から東亞の事態及び我國の立場を闡明すべく多年努力し來つたが、大東亞戰爭勃發により對外的活動を一時停止し、將來大東亞共榮圈内諸國民との連繫強化に寄與すべきことを目標として、開戦前より着手しつゝあつた大東亞廣域經濟に關する調査計畫を發展擴充し、廣く大東亞共榮圈の基礎的な諸問題を包括する総合的な調査計畫を樹立、之が實現を促進すると共に、多年に亙り蒐集せる太平洋問題に關する權威ある文献資料を翻譯して其の一部を既に刊行した。特に譯書『東南亞細亞における外國投資』は識者の好評を博し、「日本出版文化協會」の推薦圖書に選定され、江湖の注目する處となつた。尙、爾餘の調査に於ても當調査部は時局の要求に即應し聊かなりとも邦家のため貢獻すべく、更に努力を續けつゝある。

**十、民間外交機關としての活動** 外交及世界問題に關し我國の關係有力者を網羅する民間團體が存在して必要に應じ政府と呼應して内外に對し權威ある活動を行ふことの必要にして有效なことは論を俟たない。本協會としては今後益々廣く各方面有力者の参加を得て定款の目的及事業中に掲げた渉外的活動を一層強化して外交報國の誠を盡し度いと切望し廣く御後援を仰ぐ次第である。



## 二、第廿二回通常總會

### 第十一回婦人部總會

本協會の通常總會は、例年なれば五月匆々開催を見るが、本年は豫算、定款の改正等の爲め外務省側其他と折衝を要する事項多岐に互り遂に七月初旬に延期の已むなきに至つた。右次第にて第廿二回通常總會は七月六日午後四時半より丸の内大東亞會館に於て開催され、石井會長以下役員（支部役員を含む）會員百餘名の出席あり盛會であつた。總會次第左の通りである。

一、遙拜

一、黙禱

一、開會の辭

石井會長

一、昭和十六年度會務報告

北田總務主事

一、昭和十六年度會計報告

島居會計監督代理北田總務主事

一、議案（總務主事説明）

（一）昭和十七年度豫算協賛 （二）定款改正の件

先づ石井會長司會の下に國民儀禮あり、續いて北田總務主事昭和十六年度會務報告を爲す、島居

會計監督は和歌山地方金融協議會發會式に出張、出席不能に付、北田總務主事より昭和十六年度の決算報告ありて満場異議なく承認し、引續き同總務主事は昭和十七年度の豫算を説明し原案通り可決、最後に同總務主事より改正定款の説明あり之れまた原案通り可決々定を見た。尙満場に對し新評議員補充の場合はその指名を會長に一任方を諮り一同の承認を得た。

右總會に引續いて第十一回婦人部總會を開催、吉岡部長より昭和十六年度婦人部の事業報告あり就中研究會の内容、向後の發展等に關し特に説明を加へ、最後に大東亞共榮圈の指導的地位にある日本婦人としての立場を強調し、渡日婦人に對して最もよき指導機關たるべく萬全の用意と努力を致し度いと述べて報告を終り、五時半頃閉會となつた。

婦人部總會に引續き六時半より晚餐會に移り、東郷外務大臣、西外務次官、島津祕書官、小長谷アメリカ局第三課長、小川調査部第五課長代理、高石外務理事官等の來賓あり、協會側より石井會長を始め役員六名、各地方支部代表等十名、會員七十名、其他協會職員等合計百餘名出席した。食後石井會長の挨拶に次いで東郷外相は、冒頭明七日の支那事變五周年記念に言及し、最後に戦争と外交の關係に及び一同の感興を惹いた。斯くて本年度總會も頗る有意義且和氣藹々の裡に九時散會した。

### 三、評議員會

第廿一回評議員會は七月三日正午より丸の内中央亭本店に於て開催し、議題は定款の改正であつた。先づ石井會長より開會の宣があり、北田總務主事より事業の現況並に方針を簡単に説明の後、主たる議題である定款改正案が本年六月廿二日開催の第一八四回理事會に上程を見るに至る迄の經過大要並に改正の趣旨、目的を説明、最後に新定款實施迄現役員に對し經過規程を設けたる事、新理事は評議員會より選舉する規程であるが、從來會長に一任を例としてゐるから、慣例通り會長に一任を乞ふと結び、質問に入つた。伊達、高島、澤田（節藏）の各評議員より本會の更生につき贊助の希望を述べ、石井會長より現在會名の變更を諮りたる所、堀内評議員より日本外政協會の案に賛成あり、石井會長これ採擇の上、來る七月六日の總會に臨む事となつた。

### 四、理事會

【定款改正委員會】 四月十四日午後六時より丸の内中央亭本店に於て開催、出席者委員林毅陸、高

柳賢三、外務省調査部長田尻愛義、山田三良、堀内謙介、天羽英二、横田喜三郎、外務省調査部第五課長朝海浩一郎、外務省調査部第五課外務事務官小川清四郎、總務主事北田正元、別府の諸氏。林委員座長となり定款改正案に逐條審議を加へ、太平洋問題調査部審議を後日に廻したる外は多少の修正あり大體原案通り可決を見た。

【第一八四回理事會】 六月廿二日正午より昭和十七年度豫算、同十六年度決算、改正定款審議のため開催、出席者石井會長、二荒、田尻、黒木、松田、宮岡、關屋、下村、内ヶ崎、山田各理事、江口會計監督、朝海外務書記官、小川外務事務官、北田總務主事、別府、城、山形三氏、慎重審議の上本年度豫算、前年度決算、改正定款を満場一致可決した。尙ほ改正定款は追て評議員會、總會の議を経て實施を見る事となつた。

【第一八五回理事會】 十二月二十一日其後に於ける本會の會務並に事業の經過及企畫に付き報告協議を求むるため本會々議室に於て開催、出席者林、關屋、下村、信夫、高柳、松田、内ヶ崎、吉岡各理事、北田專務、別府氏、議事の内容を摘録すると左の通りである。

先づ會務に就いて事務當局より以下の如く提議報告あり、全會一致可決した。

一、新規寄附金 本年度に入り關東及關西地方の有力商社に對し、豫て理事會の承認を経て新規寄附を募集中の處、本會の目的事業に賛同せられ新に贊助後援方申出でられたるもの十數社に上

り、大體本年度豫算に計上の豫算額に達する見込みなり。

一、退職手當を豫備費中より支出の件 本年度に入り結婚のため退職の婦人職員並に轉職の男子職員數名あり、これに對する豫算上の退職手當超過額を豫備費中より支出を求む。

一、社團法人調査研究聯盟加入の件 本年十二月早々企畫院に於ては政府の懇請に基き本聯盟を創立したが、右は各般の調査研究をして國家の要請に歸せしむるため、嚮に閣議決定を見たる調査研究聯盟設立要綱の趣旨を體し結成せられたもので、本會に於ても加盟協力方勸誘を受けたから、純外交上の諸問題につき調査研究を行ふ本會の獨特な地位に鑑み、同月三日正式の加入申込を了し、同月十日首相官邸に於て發會式並に第一回總會が開かれ協會代表者も出席した。

一、石井會長喜壽祝品贈呈の件 今般會長石井子爵に於かれては目出度く喜壽の祝を迎へられたるに付、理事會は協會の名を以て祝品を贈呈することを決定、その實行は事務當局に一任した。

一、島居會計監督辭任につき記念品贈呈の件 島居本會々計監督（日本銀行理事）は數年來本會經理の監督に當らるゝ傍ら、本會の爲大いに盡瘁せられ、その功勞頗る顯著であるが、先般日本銀行理事として日銀大阪支店長の要職を兼掌せらるゝ事となつたので、同氏を別項の通り大阪方面の本會理事に推薦すると共に、會計監督在職中の功勞に酬ゆるため記念品を贈呈することとなつた。

一、新會計監督就任の件 會計監督津島壽一氏曩に北支開發株式會社總裁就任につき、後任として日銀副總裁子爵澁澤敬三氏就任せられ、島居會計監督後任には日本銀行理事柳田誠次郎氏就任を承諾せらる。

一、新理事推薦の件 左記四名の理事を推薦し會長より指名を願つた。

外務省調査局勅任調査官井口貞夫氏（前理事外務省調査部長田尻愛義氏先般特命全權公使に榮轉上海に駐劄につきその後任として）日本銀行理事日銀大阪支店長島居庄藏氏、前駐米大使堀内謙介氏、前外務次官天羽英二氏。

次いで左記事業報告に就いて承認を求め一同の賛成があつた。

一、地方巡回講演並に地方支部強化の件、一、本部講演の現況、一、學生部の現況と新規程審議の件、一、青年部活動計畫の件、一、婦人部の現況、一、出版部の狀況、一、調査部の調査研究進行狀態。

【第一八六回理事會】 三月十五日正午より丸ノ内中央亭本店に於て開催、天羽、深井、二荒、林、堀内、黒木、松田、關屋、下村、信夫、田川、高柳、吉岡の各理事、柳田會計監督、北田專務、別府氏出席、先づ當日新理事、新會計監督として始めて出席された天羽、堀内、柳田一氏の紹介があり、次で本會役員として多年會務に盡力せられた理事頭本元貞氏が今般惜しくも逝去せられ

たのに對し、協會は謹んで深厚なる弔意を表する決議を爲した。

又本會々計監督子爵澁澤敬三氏の御母堂が最近逝去せられたので、協會から同家を訪問し深厚なる弔意を表した次第の報告があり、後議事に入り、

- 一、學生部規程の件 前回の理事會で第一回審議を経た本案に付最終審議を重ね之を確定した。尙本規程第四條に基き、從來からの學生部支部長各位に對しては、會長から新たに學生部委員を委囑することとなり、又、第五條に規定する最初の常任委員として、會長から早稻田大學助教授一又正雄氏、慶應大學教授英修道氏、東京商大教授大平善梧氏を夫々囑託することとなつた。
- 二、戰時外政調査會規則の件 從來當會内に存置せられて來た幾つかの調査會を整備し且つ時局に即應して、一層有效適切なる調査研究をなして國策に貢献する趣旨を以つて本案の審議を仰いだ結果、小委員に設けて細目を検討し、その結果を理事會に報告することとなつた。
- 三、評議員委囑の件 總會の委任に依り今回左記各位に評議員を委囑する件を諮り全會一致可決した。

早大助教授一又正雄氏、慶應大學教授英修道氏、中央大學教授川原次吉郎氏、東京商大教授大平善梧氏、立教大學教授松下正壽氏。

右各項審議の後、協會事務當局から三月十二日社團法人調査研究聯盟が招集した第一回一般調査

機關責任者連絡會議の結果に付報告し、又協會最近の事業狀況、來年度の企畫、その他に付詳細報告があり、理事の間に種々意見の交換を行つて散會した。

**理事頭本元貞氏の御逝去を悼む** 本會理事として多年協會の爲め熱心に御盡瘁に相成り、多大の功績があつた頭本元貞氏は先程來御病氣であつた處、今般遂に御逝去された。眞に痛恨の至りであつて、協會に取つては大なる損失である、茲に會員諸彦と共に謹んで生前の御好誼を深謝し深厚なる哀悼の意を表する次第である。昭和十八年三月。

## 五、調査部

本協會は從來から權威ある調査研究の一機關として、大東亞諸問題、世界重要外交問題の研究調査を行つて來たが、今後は一層機構を擴大し、主力を我國時局下最も必要と認めらるゝ左記四調査研究事業に集中することとなり、調査の内容は特に外交上の緊急重大なる諸問題を選び、調査の方法も専門的、具體的となし、他の團體や機關の調査事業との重複を避け、本協會が外交問題の攻究に關し有つてゐる獨特の地位と便宜とを利用して、多數の外交界の経験者、専門家、實際家等と協力して適切なる調査をなし、その結果は有効に利用し以て當局及民間關係方面の施設に寄與するこ

と、し、調査設備を整へ重要問題の研究に従事してゐるが、調査は着々完了し、一部は關係方面に配布済となつてゐる。

(一) 外交經濟諸問題 (二) 戰時外政問題

(三) 大東亞諸問題 (四) 資料圖書の蒐集及啓發用調査

調査研究の進行 現在調査研究が進行中の諸問題に付き左に大要を説明する。

### 一、回教基本對策

(イ) 回教國家觀念と日本精神 日本精神乃至大東亞の理念と回教民族の國家及人生觀との關係は最も重要且つ根本的事柄であつて、回教民族との提携及その啓發方策の基礎をなすものである。回教の國家人生觀は教典教義及歴史的事實から出てゐるが、時代により宗派に従ひ、また各地域の狀態などによつて異なることもあるから、先ず對象となるべき實體を突き止めて、それから現在及將來に互り世界の主なる回教徒を動かす動力となる思想を摺むことから始めねばならぬ。それには國際思想戰の角度から見た回教の特殊研究が必要であつて、回教の教義、法制、經濟に互る概括的調査のみでは不足であつて、更に古今東西に於ける回教大思想家の思想研究をも爲さねばならぬ。斯くして、先方の思想を的確にした上で、それと日本及び日本精神との關係を闡明し、實際政策の指針と爲さねばならぬ。この最後の點に付いては極めて周到なる考察が必要であ

つて、外國では支那を始め獨、伊、ソ、英等苟も回教民族と接觸して來た國々は、何れも之に付ては久しい前から種々苦心研究し多年經驗もして來てゐる所であるから、これらも併せて參考とせねばならぬ。

(ロ) 回教徒と基督教徒との對立事情 此の問題は前記(イ)の一項目でもあるが、回教徒の動向に關する現實の一大問題として、特別の研究に値ひする。本問題は今後の國際問題を取扱ふ上に於て世人の想像以上に重要性と實益とがある。

(ハ) 對回教徒宣傳啓發方策 回教及回教徒に對する有効なる宣傳啓發事業は戰爭遂行上から見て緊要であるから前記の根本的問題の研究と並行して別に調査を進め専ら實際問題を取扱ふ。

(ニ) 回教の聖戰(ジハワド)研究 回教徒の聖戰は特殊の制度であつて戰爭の發展とも關係を有つて居るから研究の實用性も認められる。

(ホ) 中亞の回教民族問題 世界の回教徒中我國に取り色々の觀點から最も將來問題となるのは中亞の回教諸民族である。本研究は回教徒とか民族主義とかの思想的方面に限局せず、廣く我國に影響を齎らす事項殊に戰時戰後の大問題と關聯する問題の考察をする。

### 二、大東亞共榮圈と他地域との關係

(イ) 東西兩秩序間の問題 獨、伊の歐洲新秩序と我が共榮圈との關係殊にその圓滿なる協力問

題等に付いて研究する。

(ロ) 印度問題 印度獨立運動の實相、ユングレスその他政治諸團體の性格、獨立援助の手段方法、印度の戰時戰後の外交及重要内政問題等を究明する。

(ハ) 中亞の諸民族の問題 前述の通り中亞の諸民族に付き主として政治外交經濟上から研究調査する。

三、對米英思想戰強化策 極めて重要な問題であるので多數項目を分けて研究する。

調査研究の發表 右記載の各調査事項に付鋭意研究を續けてゐるが、その纏つた部分も尠くないので目下報告書を作成中であるが、既に三月中に調査第一號は出來關係方面に頒布した。

調査部調査第一號(昭和十八年三月)

「帝國焦眉の回教施策」(其一) 東京を大東亞回教徒の指導中心地たらしむべき方途

## 六、太平洋問題調査部

### (一) 太平洋問題調査部の現況

(一)沿革及び現況 太平洋問題調査部は創立の當初「太平洋問題調査會」と稱し、當時太平洋領域に於ける國際間・民族間の諸問題に對する理解の増進と相互關係の改善を要望する機運に促進されて、大正十五年四月に設立を見たものである。其の後昭和十年十二月本協會(當時日本國際協會)と合併の議成り、爾來協議員會を最高決議機關とし、協會内に獨自の地位を占める一部として今日に及んでゐる。常調査部は創立の趣旨に鑑み對外活動に於ては Institute of Pacific Relations (I. P. R.) (太平洋問題調査會)の日本側代表機關として之に加盟し、前後六回に亘る所謂「太平洋會議」に参加せる外、太平洋諸國民の政治・經濟・社會事情及び相互關係の調査研究を純學術的立場より遂行し來つた。その間、滿洲事變並びに支那事變を繞る複雑且つ困難なる國際情勢の展開せるにも拘らず、右の會議と調査の方式により我國の立場の闡明と東亞に於ける眞實の事態の紹介を通じて、歐米人の蒙を啓きその認識不足を是正すべく眞剣なる努力を傾注し、以て聊か邦家に貢獻せることは識者の間に周知の事實であらう。殊に支那事變勃發後に於ては當部獨自の調査を以て基本事業とし、内外重要問題に關する調査の成果を「太平洋問題資料」其他の形式に於て發表し來つたのであるが、今次大東亞戰爭の勃發を見るや、調査事業に多年の經驗を有する當部としては

愈々負荷の重きを痛感し、過去の方針を更に強化促進すると共に、独自の調査に重點を集中し、時局の要請に基き大東亞共榮圈内諸民族との連繫強化に寄與すべき他日の活動の前提として、研究の對象を専ら共榮圈内の基礎的事情に求め之が調査計畫の實現に銳意力を致しつゝある次第である。

(一)定款の改正 大東亞戰爭勃發による當部の對外活動の停止、大東亞諸地域制壓の完成等の新事態に對應する前述の如き基本方針を明確化すべく、當調査部は本協會の定款改正と相俟つて、定款「第九章 太平洋問題調査部」關係條項を一部改正し、昭和十七年七月六日の本協會總會の決議を経て左の如く之を正式に決定した。

#### 第九章 太平洋問題調査部

第二十四條 太平洋諸國民ノ事情並ニ相互關係ヲ研究シ且同種團體ト協力スル爲本會内ニ太平洋問題調査部ヲ置ク

第二十五條 太平洋問題調査部ニ協議員長一名協議員若干名ヲ置キ本會理事會ニ於テ之ヲ委囑ス

第二十六條 太平洋問題調査部協議員長及協議員ノ任期ハ二年トス但シ再任ヲ妨ケス

補缺ニ依リ委囑セラレタル協議員長及協議員ノ任期ハ前任者ノ任期ノ殘部トス

#### (三)前田協議員及び松尾紐育派遣調査員の歸朝

當調査部協議員、紐育日本文化會館長前田多

門氏並びに當調査部紐育派遣調査員(滿鐵副參事)松尾松平氏は戰爭勃發後敵地に抑留せられ消息不明となり、其の安否を憂慮しをりたる處、幸にして兩氏とも日米交換船淺間丸にて昭和十七年八月二十日無事歸朝せられたる事は洵に欣快に堪へない。當部は兩氏の寄せられた盡力とその勞苦とに對し深甚の謝意を表する次第である。

#### (二) 協議員其の他の活動概況

(一)北田正元氏の協議員就任 昨年度後半期より本協會總務主事として會務に盡瘁されてゐる北田正元氏を今般新に當調査部協議員に推薦することとなり、協議員會の決定を経て同氏を正式に協議員に選任した。

(二)協議員會 當調査部の最高決議機關としての協議員會の本年度に於ける活動狀況を列記すれば大略次の如くである。

(1) 昭和十七年四月十六日 協議員會 (於本協會) 本協會の定款改正問題に關聯する第九章の當調査部關係條項の措置並びに戰時下に於ける當部の立場の闡明等の重要案件を審議し、併せて本年度の事業方針に關し具體的協議を遂ぐ。

(2) 昭和十七年五月五日 協議員會 (於本協會) 北田新任協議員を推薦決定すると共に、昨年

度決算及び本年度豫算を検討承認し、更に新年度に於ける財政上の対策並びに當面の具體的措置に關し審議を重ね、最後に北田協議員より本協會の調査部新設案に關する報告を聴取す。

(3) 昭和十七年八月二十五日 協議員會 (於築地「錦水」) 當部協議員前田多門氏 當部紐育派遣調査員松尾松平氏、並びに松尾氏の前任者安保長春氏(同盟通信社特派員)が交換船淺間丸にて歸朝せられたるを以て、三氏在任中の盡力と抑留中の多大の勞苦に對し謝意を表し、慰勞懇談を行ひ、併せて抑留の體驗談、米國國內事情等を聴取す。

(4) 昭和十八年二月八日 協議員會 (於銀座「延壽春」) 當部今後の方針及び進行中の調査翻譯等の諸事業の一層の進捗に關し隔意なき意見を交換し協議を遂ぐ。

(5) 昭和十八年三月十九日 協議員會 (於銀座「延壽春」) 當部今後の方針等に關する緊急重大案件を繞り意見の交換を行ふ。

(三) 歡迎懇談會 昭和十七年九月十六日 (於銀座「延壽春」) 嚮に前田協議員と共に歸朝されたる松尾松平氏及び安保長春氏を招いて慰勞懇談會を開催し、I. P. R. 内部の諸事情並びに體驗談を聴取すると共に懷舊談に花を咲かせ和氣霽々裡に懇談を遂ぐ。

### 〔三〕 調査・翻譯及び刊行物

#### (一) 翻譯叢書刊行計畫の進捗

當調査部が多年に亘つて蒐集し來つた資料の中には南方諸地域に關する重要文献も決して尠くないが、中でも太平洋問題調査會刊行に係る南洋關係調書は基礎的資料として洵に貴重なるもの多く、之が翻譯紹介は江湖に裨益する處大にして目下の急務たるべきに鑑み、當部は調査事業の一翼として事務局及び協力者の手により右の翻譯に着手し、其の一部は既に同盟通信社出版部より刊行し、殘餘も昨年内に夙に翻譯を了し近日同社より刊行の運びに至つた。此等叢書の原著者、表題等を列記すれば次の如くである。

① C. F. リーマー教授序 H. G. キャリス著『東南亞細亞における外國投資』二二二頁。…昭和十七年七月二十五日刊行。

(原書—Helmut G. Callis, with an Introduction by C. F. Remer, "Foreign Capital in Southeast Asia," Secretariat, Institute of Pacific Relations, 1941. 未公刊資料)

本書は獨り専門家のみならず廣く一般識者の間に絶大な好評を博し、昭和十七年十月十日を以て「日本出版文化協會」の第十二回推薦圖書に選定せられたことは、欣快に堪へない處である。

(2) F. M. キーディング著『大南洋諸島の全貌』約七〇〇頁。…製本中、五月下旬刊行豫定。

(原書—F. M. Keesing, "South Seas in the Modern World," I. P. R. International Research Series, 1941.)



(3) I. F. G. ミルナー著『東亞共榮圏とニュー・ジラランド』約二〇〇頁。……校正完了製本中、五月下旬刊行豫定。

(原書——Ian F. G. Milner, "New Zealand's Interests and Policies in the Far East," I. P. R. Inquiry Series, 1940.)

(4) J. L. クリスチャン著『現代ビルマの全貌』約五〇〇頁。……校正完了製本中、五月下旬刊行豫定。

(原書——John LeRoy Christian, "Modern Burma—A Survey of Its Political and Economic Development, 1942.")

(5) K. R. C. グリーン著『太平洋交通總観』約二五〇頁。……翻譯完了。

(原書——Katrine R. C. Greene, "Transportation—An Economic Survey of the Pacific Area Part II", International Secretariat, Institute of Pacific Relations, 1941.)

(6) K. J. ヘルプラー著『太平洋の人口と土地利用状況』約三〇〇頁。……翻譯完了。

(原書——Karl J. Pelzer, "Population and Land Utilization—An Economic Survey of the Pacific Area, Part II", International Secretariat, I. P. R., 1941.)

(7) K. P. ランドン著『タイ國における華僑』約三七〇頁。……翻譯進行中。

(原書——Kenneth Perry Landon, "The Chinese in Thailand", I. P. R., 1941.)

(二) 調査事業 當調査部は早くも昨年度内に独自の立場より大東亞共榮圏の諸事情に關する基礎的調査計畫を樹立し、執筆者の選定、執筆の委囑等逐次其の實施を促進しつゝあつたが、本年度内に於ては左の調書の完成を見たるを以て、之を本協會より刊行して各方面の参考に供し好評を得た。『日本及び濠洲間の政治・經濟關係』(執筆者、法政大學教授平野常治氏)……昭和十七年九月二十日刊行。

尙本調書は、前回調書に引續き『太平洋問題資料』第十二輯として發表したもので、日濠兩國の歴史的關係を認識し、今日の情勢を検討する上に益する處尠からざるを信ずる次第である。

## 七、婦 人 部

會員 數 三二七名(本部二七四名、米子一二名、鳥取三二名、名古屋九名)

昭和十七年四月十四日 午後一時半より本協會に於て、常務委員並びに研究會員合同協議會を開催し、一、本年度婦人部豫算の件、一、研究會今後の課題に就いて、種々協議を行つた。引續いて二時半より月例談話會に移り、「最近の滿洲開拓民」に就いて、當婦人部委員木内キョウ子氏か

ら大政翼賛會よりの滿洲視察旅行による開拓民の家庭生活について詳細に伺つた。

五月廿八日 午後二時より同盟通信社特派員の岩永信吉氏を聘して談話會を開催、「昭南島の近状」と題して陥落後の現地の經濟問題、市街の狀態、華僑の問題、捕虜の話等生々しい現地の狀況を具に説述された。

六月廿九日 談話會、午後二時半より市河公使所用の爲その代理として、多年イランに在勤せられ市河公使と共に任國を引き揚げ歸朝された外務書記生河崎珪一氏からイランの國情、イランの女性などにつき興味ある講話を伺つた。

七月六日 丸ノ内大東亞會館に於て本協會第廿二回通常總會と共に婦人部第十一回通常總會を開催し、吉岡部長より昭和十六年度婦人部の事業報告があつた。

九月十九日 午後二時より本協會に於て月例談話會を開催、「主婦の友」よりの民間使節としてドイツ、イタリー、南米等を歴訪して歸朝された婦人部會員山田わか女史を煩し「歐米の旅を顧みて」と題して海外に於ける貴重な視察、體驗談を伺つた。

十月廿九日 本協會に於て午後二時より、先般歸朝されたチモール駐在領事黒木時太郎氏よりニュー・カレドニアを中心とする南太平洋諸領に就いて講話を拜聴した。

十一月十六日 婦人部委員並びに研究會員合同協議會を開催、一、會費改正の件、一、婦人部活動

に關する件、の二件に關し協議を行ひ、婦人部の事業としては婦人に外政知識、特に南方に對する知識を普及する目的を以つて昭和十八年一月中旬以後、毎土曜日午後外政協會に於て講習會開催の提案あり、(吉岡氏、ガントレット氏より) A組研究會でこの問題を具體化することに決定した

十一月廿六日 談話會「米英侵入の佛領モロッコに就いて」と題し、前モロッコ、カサブランカ駐在副領事、田村秀治氏より北アフリカの一般情勢、フランス植民地の動向、米、英等それを繞る各國の策謀並びにそれについてのアラブの動き等につき詳細に伺ひ、アフリカについて大いに啓發されるところがあつた。

十二月十六日 談話會、在ソ聯大使館參事官宮川船夫氏から「ソ聯の近状について」座談的な講演を伺つた。謎の國、ソ聯について非常に詳細に語られ興味深々たるものあり時の經つのも忘れて拜聴した。

三月十七日 午後二時より月例談話會を協會會議室に於て開催。昨年アメリカより交換船で歸朝された哲學博士坂西志保女史を煩して、「大東亞戰爭下に於けるアメリカ」と題する講演を聴取した。同氏は元議會圖書館東洋部主任としてアメリカの事情に精通して居られ、アメリカの不景氣の影響、人種問題に關するアメリカの惱み、從來のアメリカの政策に對する批判、戰爭前に如何

に對戰準備を着々と行つて居たか、如何に國民の對日戰爭熱をあふつてゐたか等につき、熱心に話され、最後に日本婦人としてのより一層の自覺の必要を力説され一同に深い感動を與へた。

### 婦人部 研究會

四月廿一日 研究員の増加を計るため委員十四名に適任者の推薦方を依頼し、研究員松岡洋子、竹山千代子、德澤獻子、武田順江の諸氏に研究會方針案を提出して貰つた。

四月三十日 一、今後の研究會方針、題目について、一、研究會員補充増加の件、につき協議し、各會員提出の方針案の検討を行ひ、北田専務理事の選題通り「日本女性の力」並びに「大東亞の女子教育問題」を研究題目として扱ふことになつた。新研究員の増加に關しては候補として推薦された方々に交渉した結果左の十三名の承諾を得た。

阿部靜江氏、藤原壽子氏、松岡花子氏、大濱英子氏、島崎千富美氏、折橋治代氏、川久保よし子氏、佐野智恵氏、半田喜久江氏、小島千代氏、住田泰子氏、羽仁説子氏、須田潤子氏

五月廿八日 新研究員十三名の歓迎會を兼ねて研究會を開催、研究員十八名がA・B二班に分れそれらの研究題目につき研究することになつた。

A組 毎月第二、第四水曜日午後二時—四時、研究題目「大東亞の女子教育問題」(研究員—

菅支那子、阿部靜江、羽仁説子、松岡洋子、折橋治代、佐野智恵、島崎千富美、半田喜久江、川久保よし子の諸氏)

B組 毎月第一、第三金曜日午後二時—四時、研究題目「優れた日本女性」(研究員—大濱英子、德澤獻子、藤原壽子、竹山千代子、小島千代子、住田泰子、須田潤子、村岡花子、武田順江の諸氏)

A組は六月十日(第二水曜)「大東亞共榮圈の婦人の社會的地位」を各自の分擔に従つて調査研究し發表することとなつた。

六月十日 支那—羽仁説子氏、佛印—川久保よし子氏、タイ—菅支那子氏、ビルマ—折橋治代氏、六月廿四日 滿洲—半田喜久江氏、蘭印—島崎千富美氏、馬來—阿部靜江氏、比律賓—松岡洋子氏

B組は「優れた日本女性」を時代別に研究し順を追つて發表することに決定、(以下豫定)

六月十九日 上古時代—竹山千代子氏

七月三日 奈良、平安時代—小島千代子氏

九月以降 鎌倉時代—須田潤子氏、安土桃山時代—住田泰子氏、徳川時代—武田順江氏、明治大正—德澤獻子氏、現代—藤原壽子氏、批判考察—大濱英子氏、村岡花子氏

六月十日 五月二十八日の研究会での決定に基き午後二時よりA組研究会を開き、菅支那子氏（ダイ）折橋治代氏（ビルマ）川久保よし子氏（佛印）島崎千富美氏（蘭印）松岡洋子氏（フィリッピン）の五氏からの発表あり、羽仁説子氏（支那）半田喜久江氏（滿洲）阿部静江氏（馬來）缺席のため次回に発表を願ふこととし懸案中の「南方よりの歸朝者に聴く座談會」は延期した。

六月十九日 B組研究会 竹山千代子氏より上古時代の研究発表あり。午後三時より特別講演として元泰國經濟相並びに泰新聞社長であられたブラ・サラサス氏の好意により泰建國の神話や泰婦人の地位に關して興味深き講話を拜聴した。

六月廿四日 A組研究会 馬來—阿部静江氏、滿洲—半田喜久江氏の発表あり。

七月三日 B組研究会 奈良・平安朝時代の優れた女性を小島千代子氏発表。

七月十五日 上半期に於ける最終の研究会をA・B兩班合同で開催、羽仁説子氏より「支那婦人の社會的地位」の研究発表がある筈のところ急に差し支へが出来たので中止し、午後二時から讀賣新聞社佛印特派員、成田穰氏の「佛印の文化と女性の生活」と題した特別講演を伺つた。

九月九日 午後二時よりA組の研究会を開き大東亞の女子教育問題の今後の研究方針を協議し、海外にあつて彼地の原住民の教育に貢献した方々數名を招いて體驗談を伺ひ研究の参考とすることに申合せた。

九月廿五日 B組研究会 須田潤子氏より「鎌倉時代の優れた女性」の発表があつた。

十月二日 特別研究会 九月九日のA組研究会の決定に基き正午より丸の内常盤家に於てA・B兩組合同で特別研究会を開催し、左記の方々より貴重な體驗談を伺ひ得るところ多大であつた。丸山傳太郎氏（留學生を親身に世話して居られる方）、山田忍三氏（現白木屋社長、南方諸地域を視察し來らる）、福島弘氏、同まつの氏（永らくビルマに居住、夫人は醫師として原住民の醫療衛生に盡力された）、安井哲子氏（缺席）の「明治三十六・七年頃に於けるシヤム國の女子教育」の原稿を研究部員菅支那子氏が代讀された。

十一月二十日 A・B合同研究会を開催。委員會の決議に基き南方事情普及講習會案の具體策につき種々協議、検討を加へた。

十一月廿七日 B組研究会 目下の研究題目「優れた日本女性」中、安土桃山時代を住田泰子氏より発表があつた。尙會員より、研究の参考とするため適當な人に講演を頼みたいとの希望あり。女性講座は名稱を南方事情女性講座とし（吉岡部長命名）期間は一月中旬すぎより二月一ぱいと決定。

十二月九日 A・B合同研究会 講座のため、期間、會員、會費、會員の募集方法、講座の地域、講師の人選等につき具體策を研究した。

十二月廿一日 B組研究会特別講演 B組研究会員の研究参考とするため、この方面の造詣深い東京高等師範教授中川一男氏を煩した。氏は歴史上より觀たる日本婦人の特質を四つの角度より外國のそれと比較しつゝ詳しく述べられ一同大いに得るところがあつた。

二月廿五日 A組研究会 午後二時よりA組の今後の研究方針について協議した。

三月五日 B組研究会 午後二時より開催。武田順江氏より徳川時代の女性についての研究発表があつた。

三月十九日 B組研究会 藤原壽子氏から明治時代の優れた日本女性について研究発表があつた。以上で上古より明治まで各時代別の擔當された部員の研究発表を一巡終つたので今後これを如何に纏めるかにつき協議した。

### 南方事情女性講座

去る十一月十六日の委員會の協議に基いて婦人部の事業の一つとして、大東亞戰下南方建設に協力すべき使命を擔ふ女性に南方諸地域の事情を普及するのを目的とした南方事情講座を一月十六日(土)から二月十三日(土)迄毎土曜日前後五回に互り協會々議室に於て開催した。講座内容は左の如くである。

一月十六日 「南方の民族文化に於ける母權と女性」東大教授文學博士 宇野圓空氏

一月二十三日 「ジャワの自然と人生」陸軍報道班員 淺野晃氏

一月三十日 「日本語の海外進出と女性」國語協會理事 法政大學教授 石黒修氏

二月六日 「安南のジャンヌ・ダーク」貿易統制會 加藤俊雄氏

午後三時半より南方音樂(泰國のレコードの解説並びに演奏を泰國留學生ウエチエン・プラスナリ氏に依頼)

二月十三日 「泰國の女性と家庭生活」滿鐵東亞經濟調查局 林鹿雄氏

映畫 蘭印探訪記、報道寫眞

林氏の講演後吉岡部長より受講者への證書授與並びに講座終了の挨拶があり、終つて映畫に移つた。猶會期中は南方天然色寫眞額を多數會場に陳列し一般の觀覽に供した。講座の會員は最初五十名の豫定のところ申込み多く遂に一六名を算するに至つた。この講座は婦人部として最初の試みであつたにも拘らず大方の賛同を得て好評裡に終ることを得たのは大いなる喜びであると共に、時局下婦人部としての責任の重大さを痛感する次第である。又御多忙中貴重な時間を本講座のために割き下さつた講師の諸先生並びに御助力を賜つた方々に深い感謝を捧げる。

## 八、本部講演

### (一) 午餐談話會

第二九三回 四月十日、「南方占領地區に於ける經濟施策」外務省通商局第一課長法華津孝太氏  
南方占領地區に於ける政府の經濟施策を聴取のため、外務省主管局である通商局第一課長法華津孝太氏の臨席を乞ひ、正午より丸の内中央亭本店に於て開催、午餐後同氏より皇軍占領地區に於ける政府の全面的經濟政策に關し、約一時間に亙り詳細且つ頗る貴重なる解説あり、一同裨益するところ多大であつた。終つて質問應答を重ね二時散會した。出席者八十四名。

第二九四回 四月廿四日「最近タイ國事情」特命全權公使二見甚郷氏  
過去三年に亙りバンコックに駐劄、タイ佛印國境紛争問題解決に活躍せられ、又昭和十六年十二月八日大東亞戰爭勃發前後皇軍のタイ國進駐に際し、坪上大使を助け我が外交史に偉績を貽した特命全權公使二見甚郷氏を迎へ、正午より丸の内中央亭本店に於て開催、同公使は昭和十六年六月以降のタイの國際的地位、大東亞戰爭直前に於けるタイの對日態度、日タイ軍事同盟締結當時

のタイの空氣、圓バーツ等價協定並に目下進捗中の日タイ經濟協定の片鱗を約一時間に亙り簡明率直に所見と共に解説を加へ、最後に我國は將來タイ國を弟分として盛り立つべきことを強調し一同に多大の感動と示唆を與へた。終つて意見交換、質問應答があり二時散會した。出席者七十五名。

第二九五回 四月廿八日「タイ國の近情とタイ國を繞ぐる國際情勢」特命全權大使坪上貞二氏  
タイ國を繞ぐる國際情勢が最も險惡なる時、昨年九月バンコックに赴任せられた特命全權大使坪上貞二氏の最近一時歸朝を機會に、歡迎旁々タイ國の近情を聴取のため、正午より丸の内中央亭本店に於て開催、席上同氏は日本の國境紛争調停を繞ぐるタイ國の對日態度、推移の經緯、タイ人のタイ國を標榜するピボン總理の對日感、大成果を收めたる大東亞戰爭勃發前後に於ける外交々涉の全貌並に最後に將來共榮圏の一翼たるタイ國に臨む態度等々を約一時間に亙り極めて明快率直に所見と共に披露あり、一同に異常の示唆と感激を與へた。終つて意見開陳、質問應答があり二時散會したが、仲々の盛會にて出席者百五名を算した。

第二九六回 五月二十日「ソ聯の近狀」特命全權大使建川美次氏  
新任佐藤駐ソ大使と交代、此程クイビシエフより歸朝の特命全權大使建川美次氏を迎へ、正午より丸の内中央亭本店に於て開催、午餐後石井會長より歡迎の挨拶あり、次で建川大使はソ聯の近

狀の題下に、軍事上より見た本年度獨ソ戰の動向、ソ聯の國內情勢、中立條約を繞ぐる日ソ關係等を約一時間に互り諧謔を交へ明快率直に解説と所見を加へ一同に多大の感動と示唆を與へた。終つて質問應答あり二時半散會したが、近來稀れに見る超滿員にて、出席者百五十五名の多數に上つた。

### 第二九七回 五月廿九日 「蘭印監禁三ヶ月」總領事石澤豊氏

大東亞戰爭勃發以來監禁三ヶ月の苦難を嘗められたるバタヴィア總領事石澤豊氏の歸朝を迎へ、正午より丸の内中央亭本店に於て開催、田川理事司會の下に石澤氏は蘭印監禁三ヶ月の演題にて大東亞戰爭勃發前に於ける在留民七千五百名中大部分の引揚苦心談並に監禁三ヶ月間の苦辛、救出後の行動等を約二時間に互り綿密詳細に報告あり、終つて質問應答の後二時半散會した。出席者九十名。

### 第二九八回 六月四日 「佛印の資源に就て」佛印資源調査團事務總長總領事内田五郎氏

百五十名より成る外務省佛印資源調査團事務總長總領事内田五郎氏の歸朝を迎へ、正午より丸の内中央亭本店に於て開催、織田萬博士司會の下に午餐後内田總領事は該調査團に對する佛印官民の好感、鑛産、農産、林産、水産等に互る資源調査の實況並に所見を約一時間半に互り懇切精細に披露あり、一同に多大の教訓と示唆を與へた。終つて質問應答あり二時半散會した。出席者九

十五名。

### 第二九九回 六月廿四日 「對佛印日本經濟政策に關する私見」前特命全權公使横山正幸氏

佛印資源調査團々長前特命全權公使横山正幸氏歸朝につき同氏の出席を煩し、正午より中央亭本店に於て開催、午餐後同氏は佛印に於ける地上資源、地下資源、水に關する資源を順次其の適性に就て約一時間半に互り詳細なる實例と所見を述べ、企業促進に關し重要示唆を與へ一同を裨益するところ多大であつた。終つて質問應答を遂げ二時散會した。出席者百八名。

### 第三〇〇回 七月七日 「イランの近情」特命全權公使市河彦太郎氏

赴任後一年にして曩に任地イランを引揚げ、ソ聯の好意により中央亞細亞橫斷歸朝の特命全權公使市河彦太郎氏の臨席を請ひ、正午より丸の内中央亭本店に於て開催、同氏は波斯時代と現在のイランとの國情比較、イラン引揚の経緯、中央亞細亞橫斷西伯利亞鐵道幹線に到る感想談等氏の特有する豊富の話材と能辯とにより約一時間半興味盡きざる且つ有益なる示唆に富んだ講演があり、一同に多大の感動を與へた。終つて質問應答があり二時半散會した。出席者七十名。

### 第三〇一回 七月十三日 「歐洲の近情」外務省歐亞局長安東義良氏

ローマより歸朝の後外務省歐亞局長に榮轉の安東義良氏を煩し、正午より丸の内中央亭本店に於て開催、午餐を共にした後で同氏は「歐洲の近情」の標題にて、先づ一般の關心を持つ獨ソ戰の

見透しを明かにし、次いで歐羅を失つた場合に於けるスターリン政權の前途、ドイツの北阿に於ける戦果と埃及進撃に對する觀察、獨佛關係、トルコ、西班牙、葡萄牙の對樞軸關係、英の抗戦力並に米の對英援助等々を約一時間に亙り専門の見地より直截簡明に所見を披瀝し、一同の感動を促がして示唆を與ふるところ多大であつた。終つて各方面の意見開陳、質問應答あり二時散會した。出席者八十六名。

### 第三〇二回 七月廿一日 「泰國最近の文化工作」バンコック日本文化會館々長柳澤健氏

最近タイ國より歸朝されたバンコック日本文化會館々長の柳澤健氏を煩し、丸の内中央亭本店に於て正午より開催、同氏より日・タイの文化工作面の體驗、實見談を聴取したが、百聞に優る氏の一見談は一同の認識を是正する處頗る大なるものがあつた。先づ日泰文化事業に就て今後日本として大いに努力せねばならない諸點、タイの獨立國としての自負心の強い事等を説かれ、更に安南人等の民族性を説明、一轉して宗教の側からの文化工作問題を論じ、實際の政治思想と自由民權論の徹底した浸潤振りなど詳述され、最後に語學問題にも觸れ内容は頗る豊富であつた。終つて各方面の意見交換、質問應答あり二時散會した。出席者六十一名。

### 第三〇三回 九月十一日 「佛印駐劄十ヶ月の所感」特命全權大使内山岩太郎氏

昨年十月赴任以來十ヶ月にして此の七月歸朝された日本大使府サイゴン駐在特命全權公使内山岩

太郎氏を迎へて「佛印駐劄十ヶ月の所感」を聴取すべく丸の内中央亭本店に於て開催、同氏は先づ大東亞戰爭勃發前に於ける佛印内部の事情、A B C D鐵環の打破、タイ佛印國境劃定事件について語られ、次いで經濟資源に關する我が調査團の活動に及び、佛印大使府の内容に關し、同大使府が領事、總領事、特務機關を統合し、政治部、經濟部、文化部、情報部から成る強力な新組織であることなど詳細の説明があつたが、本論とも云ふべき日本の佛印に對する政治工作、經濟工作、文化工作等の實際に付き約一時間半に亙り詳細なる講話があつた。終つて質問應答があり二時半散會した。出席者七十八名。

### 第三〇四回 九月廿八日 「米國抗戦力の綜合判斷」外務省アメリカ局第二課長大野勝巳氏

「米國の抗戦力」が一般關心の焦點となつてゐる實狀に鑑み、外務省アメリカ局第二課長として専らこの方面を管掌され造詣の深い大野勝巳氏の臨席を煩し「米國抗戦力の綜合判斷」の題下に所見を伺ふ爲、丸の内中央亭本店に於て開催、午餐後氏は先づ最近米國の抗戦準備増強に關し誇大なる報道と反對の觀測とが交叉しつゝあることを指摘したが、問題の出發點はニューデールにありとて、これと戦時政策との繼續性に付き説明され、次いで米軍需品生産力、造船能力に付き數字に依り引例立證し、最後に萬般の米國社會相に峻烈なる解剖と批判を加へ講演約二時間に及び一同に多大の感動と示唆を與へ、米國抗戦力の實相を了解せしめた。終つて意見開陳、質問



應答があり二時半散會した。出席者百二十餘名。

### 第三〇五回 十月五日 「タイ佛印國境劃定問題」タイ佛印國境劃定委員長矢野眞氏

蜿蜒二千七百キロに亘るタイ・佛印國境劃定並に非武装地帯設定の事業は、技術的に幾多の困難を豫想されたが、さしもの大事業を無事達成して此の程現地より歸京されたタイ・佛印國境劃定委員長、前特命全權公使矢野眞氏を迎へ正午より丸の内中央亭本店に於て開催、午餐を共にした後、同氏は先づ東京平和條約より委員會の構成、委員會の任務たる國境劃定と非武装地帯設定に關する附帶事業とを解説し、携行の地圖に依つて蜿蜒二千七百キロに及ぶ處女密林地帯の國境劃定並に非武装地帯設定、標柱設置等の苦心と作業完了の経緯を所感と共に説述し、更に標柱設定に當りては専門的な測量學の學理を織込める挿話あり、最後に帝國の至公平なる態度にはタイ佛印兩者共極めて満足し、進んで日本側と協力したる事實を強調した。講演約二時間に亘り二時半閉會となつた。出席者六十三名。

### 第三〇六回 十月十九日 「占領前後のチモール島」領事黒木時太郎氏

皇軍のチモール島占領前後に亘り同島葡領デイルーに在勤活躍の領事黒木時太郎氏を煩し、正午より丸の内中央亭本店に於て開催、午餐後氏は最初に前任地であり全島重要礦物資源より成るニユーカレドニヤ（現在下ゴール派占據）の情勢と今後の見透に就て重要示唆を説き、次で皇軍占

領前後に亘る葡領チモール島在任中の苦心談等を約一時間半に亘り詳細的確に報告する所あり、一同に多大の示唆を與へた。出席者九十七名。

### 第三〇七回 十月三十日 「敵米國より歸りて」大使館參事官井口貞夫氏

第一次日米交換船にて歸朝された華府駐在大使館參事官井口貞夫氏を煩して、正午より丸の内中央亭本店に於て開催、午餐後氏は日米交渉決裂の経緯、大東亞戰勃發後の外交官取扱振、一般在留民に對する取扱振、軍備、資材、船舶、國內の政治、經濟、財政、租稅等に關する米國の抗戰力等を極めて明快率直に所見と共に約一時間半に及び披露あり、最後に憂國の至情より國民に警告さるゝ所があつて、一同大いに感動且多大の示唆を受けた。終つて各方面と質問應答を遂げ二時散會した。出席者九十六名。

### 第三〇八回 十一月九日 敵國濠洲より歸りて「特命全權公使河相達夫氏

第一次日英交換船にて歸朝の在オーストラリア聯邦特命全權公使河相達夫氏の歡迎旁々正午より中央亭本店に於て開催、食後同氏は、在勤一ヶ年半の體驗を基とし濠洲認識の概念を與ふるため濠洲の地政學的發達の経緯、濠洲の安全保障政策變遷の過程、濠洲の對日政策、歐洲大戰に於ける米英濠關係、大東亞戰後の米濠關係等を政治、經濟、産業、軍備の各觀點より濠洲各要人、言論界の動向を引用し、約一時間半に亘り縷説するところあり、一同に濠洲認識に對する甚大の教

訓と示唆を與へた。終つて少時質問應答あり、二時半散會した。出席者百三十名。

第三〇九回 十一月十三日 「敵國加奈陀より歸りて」特命全權公使吉澤清次郎氏

第一次日米交換船にて歸朝の加奈陀オタワ駐割の特命全權公使吉澤清次郎氏の歡迎旁々丸の内中央亭本店に於て開催、松井男爵司會の下に氏は軟禁外交官に對する米加兩國取扱の比較、大東亞戰に對する加奈陀の立場、歐洲戰と英加、米加の關係、加奈陀人口の三分の一を占む佛系加奈陀人の動向、就中今次北阿、西阿戰に對する佛系人の動向等々を約一時間半に及び明快率直に所見と共に披瀝するところあり、一同に多大の感銘と示唆を與へ二時半散會した。出席者八十七名。

第三一〇回 十一月十七日 「佛領モロッコと列國の動靜」副領事田村秀治氏

カサブランカ駐在三年半に及んだアラビア語權威者、副領事田村秀治氏を煩し「佛領モロッコの概念及び這次米英北阿侵入迄の列國の動き」に就て同氏の所見を聴取の爲め正午より中央亭本店に於て開催、講演約一時間半中特に注目を惹いたのは今次世界戦争とモロッコの態度、獨佛休戰後のモロッコの動向並に列國就中英米獨西の動き等で、一同を啓發する所多大であつた。出席者七十名。

第三一一回 十二月七日 「戰時下ソ聯の實狀」大使館參事官宮川船夫氏

滯京中の在ソ聯大使館參事官宮川船夫氏を招請し正午より中央亭本店に於て開催、同氏より各般

の重要問題に付き約一時間に亘り委曲聴取、一同に多大の感銘と示唆を與へた。終つて質問應答があつた。出席者は百十二名を算した。

第三一二回 十二月廿三日 「ソ聯邦より歸りて」前東日露都特派員森正藏氏

ソ聯殊にコーカサス地方に精通の前東日露都特派員、現東日論說委員森正藏氏の出席を請ひ、正午より中央亭本店に於て開催、同氏はその獨特の立場と體驗に基き、時局下緊要なる重要諸問題に付き約一時間半縦横に論述し、一同に重大示唆を與へた。出席者九十八名。

第三一三回 一月十九日 「最近歐洲の情勢」外務省政務局第四課長與謝野秀氏

政務局第四課長與謝野秀氏の臨席を乞ひ丸の内中央亭本店に於て開催、氏は先づ獨ソ戰經過の概略を述べ、意圖不可解なるソ聯軍反攻の態勢と様相を説述し、次に斯かる情勢下の獨ソ兩國の物的抗戰能力並に其他國情等を解明して獨ソ戰將來の判斷に資すべき豊富なる材料を提供された。更に話題をアフリカ戰線に轉じ、第二戰線との關聯性に論及し、ドイツのフランス政策をも批判された。最後に戰局の中立國に及ぼす影響の考察を爲した。出席者百五名。

第三一四回 二月二日 「パナマ運河と周邊の實情」特命全權公使秋山理敏氏

日米交換船で歸朝の前パナマ駐割特命全權公使秋山理敏氏を煩し、パナマ防備を中心とする同國並に周邊の實情に就いての講演を聴取すべく丸の内中央亭本店に於て開催、氏は先づパナマ周邊

の地理的説明から歴史的發展過程を説き、特に米英の同地方に於ける競争史を通観して第一次世界大戦當時に於ける米英の舉措並に最近の世界制覇野望に峻烈なメスを揮ひ、その野望と密接不離の關係にあるパナマ運河の重要性に及び、而してその防備の嚴重振りを詳細に説明された。最後に米生産力に検討を加へ、米生産力の山が見えたと言断した。出席者九十名。

第三一五回 二月廿四日 「北阿及西南亞細亞の情勢」特命全權公使鈴木九萬氏

前エジプト國駐劄特命全權公使鈴木九萬氏を聘し、丸の内中央亭本店に於て開催、先づ歐洲の一般戦局を取上げて概観した後、米英の呼號するカサブランカ會談の真相とその實効を論じ、北阿戦局、イベリヤ半島プロツク問題、スエズ地峽を中心とした西南アジア諸國の回教徒問題に及ぶや、氏は英米が回教徒の指導權を握るか、日獨伊が握るか、今次戦局の歸趨を決する鍵なりと結論された。出席者百名。

第三一六回 三月九日 「土耳其の動向」朝日新聞アンカラ特派員前田義徳氏

朝日新聞特派員としてアンカラに在駐しトルコを繞る國際情勢に精通する前田義徳氏を煩はし、正午より丸の内中央亭に於て開催、同氏は第二次大戦勃發以來の土耳其を中心とする列強の角逐を時の順に説述し、權謀術策に寧日なき諸國の動向を極めて明快に説かれ、參會者一同に深き感銘を與へた。出席者七十八名。

第三一七回 三月十九日 「ソ聯の近狀」外務省政務局第三課長久保田貫一郎氏

正午より丸の内中央亭本店に於て開催、久保田課長を煩して「ソ聯の近狀」の題下に一時間餘に亘つて講演を聴取した。ソ聯問題は常に關心の焦點たるを失はず多數の參會者を得て頗る盛會であつた。出席者百名。

## (二) 特別調査委員會

(外交評論家懇談會)

本委員會は民間の第一流専門家を委員として既に五十數回を重ね來つたが、本年度は更に委員を追加し充實を計り、毎月一回乃至は臨時不定期に重要問題に付き意見を交換、國論を統一し、進んで外交國策の普及徹底を計るを目的とする外交評論家の懇談會である。

第五四回 五月廿二日 正午より丸の内中央亭本店に於て開催、外務省調査部長田尻愛義氏の大東亞戰爭と支那問題、就中支那事變收拾に關する私見の披瀝あり、終つて各委員との間に意見を交換し二時半散會した。出席者二十一名。

第五五回 七月三十日 正午より中央亭本店に於て開催、外務省東亞局長山本熊一氏の出席を求め

支那事變收拾、其他に關する腹藏なき所見を聴取の後、意見の交換を遂げ二時散會した。出席者二十名。

第五六回 九月二十五日 正午より丸の内中央亭本店に於て開催、委員小汀利得氏より國內産業に關し頗る有益なる所見を聴取したが、その披露したる所見中で主なるものには、昭和十七年豫算と租稅收入、公債消化の現況、重要産業の近狀、勞働力の實相等があつた。右終つて意見交換を行ひ二時散會した。出席者十六名。

第五七回 十月二十二日 正午より中央亭本店に於て開催、要務を帯びて二箇月に亘り朝鮮經由滿洲國北支中支を往復した委員川島信太郎氏に請ひ視察談並に各界要人との會見の印象、觀察等を聴取したが、今後の支那就中北支、中支の將來に關する具體的所見は一同に多大の示唆を與ふる所があつた。尙在支帝國外交機構問題にも言及する所があり談一時間半に及んだ。終つて各方面の意見開陳、質問應答があり二時半散會した。出席者十八名。

第五八回 十一月二十五日 正午より丸の内中央亭本店に於て開催、最近北京に設立された華北綜合研究所顧問の資格にて滿洲、北支方面を視察の委員、男爵大藏公望氏の歸京を迎へ、同氏は北支在留日本人問題、治安、水利、産業、經濟、文化の諸問題を約一時間半犀利なる批評眼を以て説述され、終つて質問應答あり、二時半散會した。出席者二十名。

第五九回 十二月二十四日 正午より中央亭本店に於て開催、ソ聯クイビシエフより歸朝中の大使館參事官宮川船夫氏を聘し、主として交互に腹藏なき意見の交換を行ふ方式の下に問題を検討し二時半散會した。出席者二十五名。

第六〇回 一月二十六日 正午より海上ビル中央亭に於て開催、獨逸東部戰線の實況、北阿戰況の現段階、樞軸側並に反樞軸側米、ソ、英の抗戰力の真相に就き頗る興味ある解説を聴取し一同多大の感動を受けた。終つて各方面と意見交換、質問應答を遂げ二時散會した。出席者二十四名。

第六一回 二月十六日 正午丸の内中央亭本店に於て開催、坂西利八郎中將、神田正雄兩委員より我國の對支治外法權撤廢、專管居留地返還並に國民政府の參戰に對する支那各界の反響を聴くこととした。坂西委員は遠く支那の日露戰爭及び第一次世界戰爭に對する中立的立場より説き起し今次參戰の經路を仔細に検討して國府の實力に及び、注目すべき示唆を與へた。神田委員は北支の政況、物資狀態等を最近の視察に基き巨細なる判定を與へ、問題の核心を衝いた。終つて質問應答あり一時半散會した。出席者二十二名。

第六二回 三月廿九日 午後開催、外務省の山田調查局長を煩して歐洲の情勢を中心とした諸重要問題に付き最新の解説を聴取し、その後でそれを中心として互に意見を交換した。山田局長は最近の豊富なる情報資料に基いて二時間餘に亘り詳細明確に説明せられ啓發さるゝところ頗る大で

あつた。

### (三) 外交懇談會

第一回 五月十九日 既設の「國際談話會」を再現して、實業界の新進實務家と定期的に會同、差當り月一回晚餐を共にしつつ、國際政治經濟上の重要問題に付き、關係當局専門家先輩より談話を聞き、會員相互の知識を交換し、兼ねて親睦の目的を達するやうにしたいと云ふ趣旨から、這般特殊銀行、普通銀行、信託會社、有數の商會社、事業會社其他へ課長級以上の社員一名推薦方を依頼して置いたところ、豫定の推薦者を得たので、外務省調査部長田尻愛義氏の臨席を煩し午後六時より第一回會合を丸の内中央亭本店に於て開催、北田總務主事より本會再開の経緯、會の名稱(協會に於て検討を加ふることとなり、その後外交懇談會と決定す)、會合の回数(月一回と決まる)、時刻(午後五時となる)等につき簡単に挨拶と協議があつた後、田尻部長は獨ソ戰の見透、獨ソ戰並に大東亞戰を纏ぐる英米の苦境、支那事變收拾問題等に關し、約一時間半熱心に腹藏なき所見の披瀝あり、終つて意見交換、質問應答があり九時散會した。出席者三十六名。

第二回 六月十九日 正午より丸の内中央亭本店に於て開催、最近外務省通商局長より南洋局長に

榮轉の水野伊太郎氏を主賓とし、同氏より大東亞共榮圈の要素並に共榮圈内に於ける經濟工作の根本方針に關する豪壯なる所見を聴取した後、通商經濟を中心に各方面の意見開陳、質問應答を遂げ二時散會した。出席者三十六名。

第三回 七月二十七日 支那問題の大權威者貴族院議員陸軍中將坂西利八郎氏の最近支那視察談を聴取の爲め正午より丸の内中央亭本店に於て開催、同中將は最近二箇月に亘る中、北支那視察の内容を概説し、次で南京政府の財政の現況、軍隊、治安の状況を説き、更に北京の財政、軍隊、治安、要人の動靜に及び、最後に事變收拾に對する所見を披瀝せられ大いなる示唆を與へ、一同啓發せらるゝところ多大であつた。終つて質問應答あり二時散會。出席者三十五名。

第四回 九月二十九日 正午より丸の内中央亭本店に於て開催、西亞、中亞の諸問題に造詣の深い本會専務理事元特命全權公使北田正元氏を煩し「亞細亞問題に關する日獨關係」に就いて所見を聴取した。氏は先づ獨ソ戰の戦況の見透しとそれに關聯する問題を詳述し、次に獨逸の世界政策轉換の経緯、亞細亞民族の動向即ち主として回教民族の向背及び印度問題並に之れに對する獨逸の宣傳政策、實際施設の要點を説明し、歐洲新秩序と大東亞共榮圈との關係に付き解説を加へ、最後に印度獨立問題中現在又將來の最大重要點を詳述する等、約二時間に亘り快辯を揮ひ一同に多大の感動を與へた。終つて質問應答があり二時半散會した。出席者二十五名。

第五回 十月二十六日 正午より丸の内中央亭本店に於て開催、第一次日英交換船にて歸朝の在英大使館二等書記官松井明氏よりフランスより轉勤後在英二箇月にして大東亞戰爭勃發のため軟禁せられたる事を冒頭し、赴任の途に通過した米、加、葡、西、佛、獨及び英の消費統制並に私生活の状況、英の戦力物資の状況等を約一時間半綿密に解説、一同に多大の示唆裨益を與へた。終つて質問應答を遂げ二時散會した。出席者三十名。

第六回 十一月二十四日 曩に在米大使館參事官として日米交渉に野村、來栖大使を補佐活躍し大東亞戰勃發後第一次日米交換船にて歸朝後勅任調査官に榮轉し、外務省弘報部長の要職に就かれた井口貞夫氏に請ひ、米國の實相聴取のため、正午より中央亭本店に於て開催、同氏より日米交渉の経緯、眞珠灣敗戰査問委員會報告書内容、日米開戦に對する米國識者言論界の批判、産業方面就中飛行機、潜水艦、航空母艦建造の概貌、米國抗戦力等々に付き約一時間半に互り極めて詳細的確なる見解を聴取した。終つて各方面の質疑應答あり二時半散會した。出席者二十二名。

第七回 一月二十九日 正午より丸の内中央亭本店に於て開催、外務省通商局長澁澤信一氏より今後の國際經濟に關する重要問題に對する検討批判を約一時間に互り聴取したが、論旨一貫一同を裨益し各方面の注目を惹いた。終つて意見の交換あり二時散會した。出席者二十二名。

第八回 二月二十三日 正午より丸の内中央亭本店に於て開催、今次締結の經濟協定に關し、外務

省主管課通商局第二課長朝海浩一郎氏より該協定に關する交渉成立の経緯並に同協定が世界最初の經濟圈協定となりたる特異性に就て詳述あり、最後に同協定附屬三取極の解説を試み一同に多大の示唆を與へた。終つて質疑應答を重ね二時散會した。出席者二十二名。

## 九月刊雜誌

(一)「外交評論」 每號A五判一七六頁、定價四十錢

本誌は誌齡廿三卷を重ねる我國に於ける最古にして且最も權威ある外交専門雜誌であるが、本誌の内容は關係當局、政治家、専門家、評論家其他一般有識者に對する高度の啓發又は參考資料として今後益々重要な地位を占めるので、編輯に當つては各種讀者層の要求は考慮するが重點を帝國の外交に關する建設的にして權威ある評論、論策、資材の重要根源たらしむることを期してゐる。卷頭欄では半官的論説を掲げ、以て帝國外交方針の闡明に努め、論策欄はこれを増加した上可成解説的論文に代へて政策的、建設的論文を載せることとし、出来るだけ新進有爲の評論家、經綸家を紹介しその進出を助長することに留意してゐる。資料欄も擴張し、主として當局所持の最新資料を

公開し、正確なる材料を世間に供給して一般及専門家の研究参考に資してゐるが、右は戦時下海外通信の杜絶に伴ひ、一般から外交資料情報公開の要望あることにも鑑み愈々その重要性を加ふる次第である。尙外交隨筆欄も擴張して、多數有益なる短篇的論文を蒐集するに努めてゐる。

(二) 「世界と我等」 每號六判四〇頁、定價十錢

本誌も誌齡十八卷を數へ「外交評論」と異り水準を下げて正確平易に且興味深く時局問題を解明する目的で編輯してゐるが、最近益々民衆層に固定讀者が激増中で、廣く一般人に對し外交及世界事情を説述し、我外交の動向を理解せしめ、國民を結束せしむる上に多大の効果を擧げて居る。本誌の執筆者は皆匿名としてゐるが、その内容をなす所の資料、解説、論評等は何れも權威あるもので、每號時々の重要問題に付いては關係専門家の力作を載せてゐる。

十、單 行 本

△「日本外政協會會務報告」(昭和十六年度) B六判一三二頁、非賣品。

△「南方外交史話」・中田千畝著、田尻愛義調査部長序、B六判五九二頁、定價三圓五十錢。

△「條約改正關係大日本外交文書」 日本學術振興會編纂、外務省調査局監修、A五判一四四〇頁、定價十八圓。

△「米國政治外交史」(上卷) 木村惇著、石井菊次郎子爵序、A五判七六〇頁、定價六圓五十錢。

△「日本及び濠洲間の政治經濟關係」 太平洋問題調査部編纂、A五判九四頁、定價一圓。

△「昭和十五年の國際情勢」 日本外政協會編纂、B六判八六〇頁、定價五圓。

△「東印度農業經濟研究」 奥田或譯著、A五判四二四頁、定價三圓八十錢。

△「大東亞共榮圈と中南米」 アニタ・ブラッツレイ著、英修道譯、B六判二〇八頁、定價一圓三十錢。

△再版「印度民族史」 外務省調査局編纂、A五判四三〇頁、定價一圓八十錢。

△再版「南方外交史話」 前掲

△「日泰關係と山田長政」 中田千畝著、井口貞夫勅任調査官序、B六判三八四頁、定價三圓。

△「學生春季大學・大東亞講座テキスト」 B六判二〇頁、非賣品。

△「新汎米主義と米洲國際法」 海本徹雄著、松本俊一外務次官序、A五判六二〇頁、定價六圓。

△「米國のカリビアン政策」 海本徹雄著、A五判一六〇頁、定價一圓四十錢。

△「米國大統領地位及び權限」 家永正章著、堀内謙介序、A五判三二〇頁、定價三圓二十錢。  
 △「帝國焦眉の回教施策」(其一、東京を大東亞回教徒の指導中心地たらしむべき方途) 調査部  
 調書第一號、非賣品。

### 十一、會員 (昭和十八年四月現在)

贊助員	三二名	終身會員	七五名 (内、婦人二名)
特別會員	五九三名 (内、婦人一名)	通常會員	七一四名 (内、婦人一五八名)
舊甲種會員	七九七名 (内、婦人五名)	舊乙種會員	二、一七九名 (内、婦人一五一一名)
學生部員	三四三五名	計	七、八二五名 (内、婦人三二七名)

### 十二、地方講演

#### 東北六縣十地方

本年度の時局問題巡回講演會は、先づ第一班は九月十六日より同二十七日までの十二日間に互つて、福島、仙臺、盛岡、青森、五所川原、弘前、秋田、山形、米澤、郡山の順に講演會並に懇談會を開催した。講師には前特命全權大使堀内謙介氏、外務省囑託經濟學博士高垣寅次郎氏を聘し前者は「大東亞戰と國際情勢」後者は「世界新秩序と經濟體制」と題し夫々約一時間宛の熱辯を揮つたが、各地方共極めて眞劍嚴肅なる雰圍氣の裡に終始し、豫想以上の好成績を收めた。特に各縣指導者層のみの參集を得て開催された懇談會に於ては、各地共質問續出し、大東亞戰下地方人士が如何に世界時局問題に對し、深甚の關心を持つて居るかを想はしめた。

尙、各地講演會並に懇談會の概況及び兩講師講演梗概は左記の通りである。

#### 各地情況

▽福島市 九月十六日午後四時半より東北配電株式會社福島支店階上講堂に於て懇談會を開催  
 參會者八十名、開會の辭知事代理縣學務部長。  
 閉會の辭翼贊會縣壯年團長松本陸軍少將。

▽仙臺市 十七日午後二時より縣廳會議室に於て懇談會を開催、出席者九十名、開會並に閉會の辭知事。

▽盛岡市 十八日午後二時半より市役所會議室に於て懇談會を開催、出席者七十名、開會並に閉會の辭翼贊會縣壯年團長松本陸軍少將。



更に同日午後七時より市公會堂に於て講演會を開催、聽衆一千名、開會の辭知事代理宮崎縣總務部長、閉會の辭松本少將。

▽青森市 十九日午後三時半より商工會議所講堂に於て懇談會を開催、參會者六十名、閉會並に閉會の辭和田縣翼贊會庶務部長。

▽五所川原町 二十日午後一時より中久旅館に於て懇談會開催、出席七十名、閉會並に閉會の辭高氏五所川原農學校長。

▽弘前市 二十一日午後三時半より石場旅館に於て懇談會を開催、參會者十七名、閉會の辭市長代理羽賀助役、閉會の辭葛原市長。更に午後七時より市公會堂に於て講演會を開催、聽衆七百名、閉會の辭葛原市長、閉會の辭羽賀助役。

#### 堀内講師講演要旨

先づ米英を中心とした聯合國側當初の歐洲戰第一主義の作戰計畫と爾後に於

▽秋田市 二十二日午後二時より縣會議事堂に於て懇談會開催、出席者八十名、閉會の辭知事、閉會の辭知事代理者。

▽山形市 二十三日午後三時半より縣廳會議室に於て懇談會開催、出席者六十名、閉會並に閉會の辭知事。

▽米澤市 二十五日午後三時半より市公會堂に於て懇談會を開催、出席者六十名、閉會並に閉會の辭市助役。

更に同日午後七時より市公會堂に於て講演會を開催、聽衆九百名、閉會並に閉會の辭市助役。

▽郡山市 二十六日午後二時より市役所に於て懇談會を開催、出席者七十名、閉會並に閉會の辭市助役。

けるその太平洋方面重視への變改經緯を詳述して、敵の反撃振りを報じて國民の注意を喚起し、次に北阿戰線の意義現狀を述べ、第二戰線問題を繞つての米英ソ三國關係を論じ、斯くの如く東西に於て漸く攻勢に轉ぜんとしつゝある英米の實力檢討に論旨を進め、先づイギリスの實情を通觀した後、結局、アメリカに依存するより外に道なき所以を解明し、アメリカの國防物資の檢討に移り、米國の經濟戰を裏付ける精神戰、即ち士氣の點は果して昂揚され居るや否やに付きて説き、戰爭遂行に國民が一丸となつて政府を支持、愈々本腰に戰爭へ乗り出した米國內の動向を剩す處なく述べると同時にアメリカの弱點急所を衝き、對米作戰上示唆に富む見解を發表され、軍事作戰に劣らざる效力を持つ外交宣傳作戰の不斷の展開を説かれ、此方面に對する國民の關心と協力を要望して話頭を獨ソ戰とソ聯の動向に轉ず。即ち獨ソ開戰以來今日までの戰況とその推移の概略を説き、將來の見透しを述べ、依然として中立條約の制約下にある日ソ關係の機微を穿つ。更にトルコ、スペイン、ポルトガル、中南米の動向をも一應簡明に傳へて、最後に敵を輕視する事なく又過重評價する事なく萬全の用意を整ふべしと結ぶ。

高垣講師講演要旨 今次大戰は構和を豫想されぬ長期戰であり戰爭しつゝ建設し、建設しつゝ戰爭せねばならぬと前置きし、戰爭の推移に伴つて世界は日本を中心とする東亞共榮圈、獨逸を中心とするヨーロッパ廣域經濟圈、英米が合體して中心となる廣域經濟圈、ソ聯を以て構成する經濟圈

に分裂、統合、整備されて行くといひ、各經濟圏の特性を述べ、廣域經濟體制の輪廓を明にし従來の經濟理念とは一變した新理念に基く統制經濟組織にならざるを得ない所以を詳述す。ついで統制下における生産論に及び低物價政策堅持と生産増強との矛盾解決策を明示、更に「インフレ」問題を解説、前大戰のドイツに於けるインフレーションの必然性を究明した後、今次の大戰には斯かる悪性インフレが発生する餘地がなしと斷じて、その根據を明示した。續いて對外的問題を取上げ、最近外國貿易の經濟學上に於ける意義が變つて來た實狀を述べ、日本將來の外國貿易の根本方針を提示してから博士の最も得意とする通貨問題に及んで、先づ廣域經濟圏内に於ける決濟方法、國際間の決濟方法を詳論し、従來の決濟手段たりし「金」の問題に論及、通貨制度の基礎としての「金」の歴史、役割、現狀などを細密に説いた後日本はよろしく通貨制度の基礎としての「金」とは絶縁すべきもので、既に日本銀行法はその建前の下に劃期的な變改が施された旨を指摘した。然し「金」は依然、商品としての價値は失はぬと論じその理由を説き、最後に然らば何を以て「金」に代置し、通貨の基礎と爲すべきやと反問し、右は將來に於ける國際間の政治的、經濟的實力のみが決定するものなりと結ぶ。

## 北陸一五縣八地方

第二班巡回講演會は十一月五日より同十四日までの十日間に亘り、新潟、長岡、長野、富山、高岡、金澤、福井、敦賀の順に連日懇談會並に講演會を開催した。講師には堀内前大使の外、外務省より通商局第二課長朝海浩一郎氏、調査部第三課長松井明氏、政務局第六課外交官補鈴木孝氏が公務多端の折にも不拘本會の爲め講演方承引されたのは感謝に堪えない。各地共左記演題の下に約一時間宛四講師の獅子吼があつた。即ち堀内氏は「大東亞戰と國際情勢」朝海氏は「國際情勢に就いて」松井氏は「歐洲各國の國民生活に就いて」鈴木氏は「最近の米洲情勢」の題であつた。時局の進展と共に到る處國民の世界情勢に對する關心は實に想像以上であつて、本協會の會合の如き眞に參會者堂に溢れ、且つ何れも熱心に聽講され各種の有益な質問續出した。

因みに各地に於ける懇談會並に講演會の概況及び諸講師の講演概要は左記の通りである。(堀内講師の講演内容は前掲参照)

### 各地情況

・ 辭相馬翼贊會縣支部事務局長。

▽新潟市 十一月五日午後三時半よりイタリヤ 於て懇談會を開催、參會者六十名、開會の辭松軒に於て懇談會を開催、參會者百名、開會並に閉會の辭知事。更に午後七時より市公會堂に於て講演會を開催、聽衆八百名、開會並に閉會の

▽長岡市 六日午後二時半より市役所會議室に於て懇談會を開催、參會者六十名、開會の辭田市長、閉會の辭神山商工會議所副會頭。

更に午後七時より市公會堂に於て講演會を開催

聽衆一千名、開會並に閉會の辭市長代理。

▽長野市 七日午後二時半より圖書館に於て懇談會を開催、參會者七十名、開會並に閉會の辭引田縣内政部長。

更に同日午後七時より圖書館に於て講演會を開催、聽衆六百名、開會並に閉會の辭高野市長。

▽富山市 九日午後二時半より縣廳會議室に於て懇談會開催、參會者六十名、開會並に閉會の辭赤間翼贊會縣支部事務局長。

▽高岡市 十日午後二時より市役所會議室に於て懇談會開催、參會者百名、開會並に閉會の辭大石市助役。

更に午後七時より、平米校講堂に於て講演會開催、聽衆八百名、開會並に閉會の辭宮崎市助役。

▽高岡高商 十一日午前九時より同市高等商業

學校講堂に於て全校學生四百名に對し講演、開會並に閉會の辭熊木校長。

▽金澤市 十一日午後二時より縣會議事堂に於て懇談會開催、參會者八十名、開會並に閉會の辭玉置縣内政部長。

▽福井市 十三日午後四時より市公會堂に於て懇談會を開催、參會者八十名、開會の辭落合市長、閉會の辭佐伯縣内政部長。

更に同日午後七時より市公會堂に於て講演會を開催、聽衆一千三百名、開會の辭佐伯縣内政部長、閉會の辭矢野翼贊會縣支部庶務部長。

▽敦賀市 十四日午後七時より市公會堂に於て講演會を開催、聽衆八百名、開會の辭矢野翼贊會縣支部庶務部長、閉會の辭末原市長。

### 朝海講師講演要旨

氏は四ヶ年間英國に駐在した經驗知識を本とし、英國最近の事情に主點を置かれ、始めに大東亞戰前の英國の外交政策を三段階に分ち、第一段階を對日壓迫政策（支那事變—歐洲戰勃發迄）第二段階を對日和協政策（歐洲戰勃發後—三國同盟締結迄）第三段階を對日再壓迫政策（三國同盟締結—大東亞戰勃發迄）に分ち、各段階の特質を詳述し、進んで大東亞戰勃發前後の米英關係の機微を穿ちて英國の現状に及ぶ。英國現在の抗戰力を各方面から仔細に點檢し具體的數字を列擧して批判を加へ、特に抗戰力を構成する最重要部分として精神力、即ち英國國民の志氣、國民性に付き詳述され、戰爭持續とチャーチル信頼の念を持つ英國國民の實情を述べて、之れを擊破すべき國民の決心を促された。轉じて印度問題に移り、騷擾の概要、その進行狀況及特質を衝き、英印會談決裂の経緯を説き、印度人の態度を解剖して印度問題の眞實を明かにす。最後に長期戰に對する國民の決意を益々強化する必要を説述された。

### 松井講師講演要旨

最初に同書記官が米英佛へ赴任したる経路と歸朝の經過等に付き語り、右勤務先にて實見したる歐米諸國の國民生活に付いて話された。先づアメリカの生活物資に付き論じ素りに同國が東洋問題に容喙するの誤りなる點を痛論、次にポルトガルの事情を説かれて同國が中立政策の維持に苦しむ立場を述べ、スペインの情勢、人民の生活、市場の實情等に付き語る。フランスに付いては細かく各種の實際を詳述した後、餘裕綽々たる盟邦ドイツの生活實情をも具さに報告

さる。更にギリシヤ、ユーゴスラビヤにも一瞥を加へ次いで英國の實情紹介に移る。最後に英國人一般の志氣特に日本に對し大東亞戰勃發當時より漸時最近迄の間に變化し來りたる觀察の推移に付き説明、英米を恐るゝことなきと共に輕視してはならぬと忠告された。

**鈴木講師講演要旨** 氏は渡米後カナダに轉勤し今次の交換船で歸國した經過の大略を述べ、戰前參戰を決意したル大統領が密かに日米交渉中海軍に對し萬一の用意を指令した裏面の事實を述べ、ハワイ奇襲當時の米國內の情況を叙し、更に爾後のアメリカの輿論、動向、情勢を詳述す。次に近時アメリカに擡頭して物凄い程の勢力を以てアメリカ經濟界を風靡しつゝあるヘンセン氏一派の新經濟理論の概要を紹介、同理論の根柢に潜むユダヤ人的世界制覇野望の危險性を指摘して注意を喚起した。最後にアメリカ技術者の社會的地位並にその重要性に付き實見談をなし、長期戰に勝抜く爲には日本も益々科學戰の重要性を再認識し、技術者の奮起を促すところがあつた。

### 十三、地方支部

#### (一) 第十八回全國支部長會議

本年度の第十八回全國支部長會議は七月六日午前十時より大東亞會館に於て開催されたが、左の十支部一部會より出席あり盛會であつた。

##### 支部側出席者

鳥取支部	支部長代理常務理事 森 脇 魁氏
島根支部	支部長代理理事 並 河 亮 次氏
名古屋支部	支部長代理主事 富 田 泰 一氏
神戸支部	支部長代理理事 湯 淺 恭 三氏
和歌山支部	支部長代理理事 小 笠 原 譽 至 夫氏
埼玉支部	支部長代理主事 關 根 二 氏
米子支部	支部長代理幹事 崎 田 茂 信氏
福井支部	支部長代理副支部長 小 牧 孝 雄氏
	幹事 山 下 雄 隆氏
山口支部	支部長代理理事 伊 藤 萬 喜 多氏
三重支部	支部長代理幹事 木 下 四 郎氏
五所川原部會	部會長 高 氏 佐 吉氏

本部側は石井會長、關井、關屋、下村、山田、吉岡の各理事、江口監事、北田總務主事、別府、佐伯、山形の各職員出席し、石井會長開會を宣し、引續き北田總務主事は昨年度の事業の概要と本年に於ける協會新事業の全貌を明かにし、各支部の援助協力を求めた。次いで出席の各支部代表より夫々挨拶及所感と希望を述べ、石井會長簡單に批判を加へ、終つて鳥取支部提案の

- 一、大東亞共榮圈内の政治經濟に對する實際的動向をより以上會員に認識せしむる方法を講ぜられ、尙一層支那に於ける宣撫方策に重點を措かれ最善の對策を講ぜられ度し。
- 二、現下世界新秩序建設に當り我が帝國の指導的理念を確然と世界萬邦に認識せしめ各廣域圏の政治的に經濟的に優位なる地位を確保すべく適當なる手段方法を講ぜられ度し。
- 三、地方支部の運営に對して内務省より地方長官宛本會の趣旨を徹底せしめ地方廳をして協力せしめられ度し。

に就て同支部森脇氏より説明あり、北田總務主事これに應酬しその所説と希望に對し懇切なる答辯を與へ、これにて一先づ午前の會合を終り午餐會に移つた。食後引續き本部支部の事務打合會を開催、事務局側より本部へ誌代の實費(半額)を各支部に於て取纏め送金の可否を諮りたるに、出席支部代表何れも異議なく承認、追て本部より各支部に對し正式に交渉を開く旨決定、引續き北田總務主事の歐洲並に西亞、印度方面の時局談を聴取し三時半散會した。

## (二) 支部の活動

### ○愛媛支部

(會員) 舊特別五名、舊甲種三一一名、舊乙種二〇名。

### ○香川支部

(會員) 舊甲種三六名、舊乙種一六一名

### ○大阪支部

(會員) 終身三名、特別五名、通常一三名。  
(講演會) 六月六日外務省歐亞局柿坪事務官及本部佐々木氏來阪、午後七時より府立貿易館

### ○鳥取支部

(會員) 終身二名、舊甲種一八名、舊乙種一六名、婦人三二名。  
(役員會) 四月十日、五月廿五日、六月十八日

講堂に於て、支部會員並に大阪府主催大阪府海外進出講座聽講生約二百名に對し左の講演を行つた。

「印度及西南亞細亞の動向」 柿坪事務官  
(懇談會) 三月三日本部專務理事北田正元氏の來阪を機會に時局問題並に會務に就て支部役員との懇談會を開いた。

六月廿八日、十一月七日、十二月十五日の六回に互り役員會を開催、會務に關する協議を遂げた。

(講演會)十一月八日午後一時より鳥取商工會議所講堂に於て石橋湛山氏を講師として「最近時局經濟事情」に關する講演會を開催した聽衆約三百名。

(講演會)十二月十八日午後一時より鳥取商工會議所講堂に於て天野芳太郎氏を講師として「大東亞戰爭と北中南米事情」に就て講演會を開催した。聽衆約三百名。

### ○島根支部

(會員)特別二名、通常二〇名。

(月例懇談會)數年前より松江市在住の會員は

毎月十五日夕刻より會員交互の自宅、若くは

手輕な料亭に集會し、時局懇談會を開く事として居るが、十七年度中の成績は四月は選舉關係にて開會せざりし外毎月開會、計十一回初發以來の通算六十七回(昭和十八年三月迄)に及ぶ。話題は持寄りの情報にて特殊の研究等なく、只外交評論の誌面刷新にて同誌より材料を提供せられし事多し。又桑原支部長所藏の近世に於ける東亞乃至世界的經綸を有したる豊太閣、伊達政宗等の書簡遺品を陳列展觀してその人物を偲び事蹟を語り合ひたるは興味深かつた。

(特殊懇談會)十月九日紐育在住二十餘年に及び同地日本人會長を永年勤続し、去月交換船淺間丸にて歸朝せる松江市出身香西次郎氏の

歸郷せるを聘して懇談會を開いた。石原市長、

桑原支部長以下三十餘名出席し、香西氏は開戰前の情勢より日本人收容所に於ける實況等を詳細説述され、會員よりは米國の工業力等に就て質問あり盛會を極めた。

(會員募集)本部の定款改正により會員の資格變更ありたるにつき新會員の多數獲得を目ざして續々勧誘中である。

### ○名古屋支部

(會員)特別二一名、通常三五名、舊甲種二〇名、舊乙種一五名、婦人九名。

(講演會)八月四日午後六時より名古屋商工會議所に於て南洋協會東海支部と共同主催の下に左記講演會を開催した。

「大東亞戰爭と帝國海軍」

海軍大佐 廣瀬 彦太氏

(講演會)十一月十六日名古屋商工會議所に於て名古屋貿易協會と共同主催にて左記講師並に演題の下に米洲事情講演會を開催した。

「最近の米國事情」

大使館書記官 高木 廣一氏

「最近の亞智事情」

大使館書記官 細川鎗太郎氏

### ○神戸支部

(會員)終身九名、特別四四名、通常二八名。

(役員會)九月廿六日正午より神戸商工會議所に於て理事會を開き、湯淺理事より第十八回全國支部長會議及第二十二回通常總會の議事

經過報告ありて後當協會の機構改革に關する  
新定款及神戸支部規約につき協議し、學生支  
部補助の件及支部總會の件を決定した。

(役員會)十一月廿八日正午より神戸商工會議  
所に於て理事會を開き、支部總會に關する件  
及十七年度會費徵收に關する件を協議した。

(學生部事業助成)神戸商大、神戸高商、關西  
學院大學、神戸女學院各學生部に對し、夫々  
校友雜誌に研究論文の發表掲載費及び書籍購  
入費として各金五十圓を補助し、猶關西聯合  
會開催の補助費として金三十圓を補助す。

(支部總會)昭和十八年三月四日午後五時より  
神戸商工會議所に於て開催、勝田支部長司會  
の下に武藤副支部長より諸般の會務及會計の  
報告あり次いで議案の審議に移り承認した。

本部より北田専務理事出席し本部事業の説明  
あり本支部間の連絡を一層密にする方法を協  
議し終つて晚餐會を開いた。出席者百餘名。

(講演會)右に引續き同所に於て左記講演會を  
開き、終了後質疑應答ありて盛會裡に八時半  
散會した。

「現下の國際重要諸問題」北田 正元氏  
(講演會)六月四日午後一時より神戸商工會議  
所に於て左記講演會を開いた。

「南洋の地理と大東亞共榮圈」

軍政顧問 砂田 重政氏

(講演會)昭和十八年二月一日午後六時より神  
戸商工會議所に於て左記講演會を開いた。

「南方科學旅行」

神學動員協會理事長 多田 禮吉氏

### ○京都支部

(會員)終身一一名、特別一八名、舊甲種一四  
名、舊乙種三〇名。

(役員會)七月廿九日比叡山ホテルに於て緊急  
理事會を開催し重要會務を處理した。

### ○茨城支部

(會員)舊甲種七名、舊乙種二六名。

### ○和歌山支部

(會員)特別四名、通常二四名。

(出版物)十二月八日出版物「太陽」を印刷發  
行し會員並に關係方面に送付せり。

(座談會)昭和十八年三月二日午後四時より和

(座談會)七月四日午後一時より神戸商工會議  
所に於て學生部との座談會を開催した。各學  
生部より十七名出席し、會議所常設の大東亞  
資料館を所員青木主事の案内にて見學し右に  
對し座談會を催した。當支部より武藤副支部  
長、森本理事、會議所より丸本主事、藤谷書  
記出席。

(文化協議會)十月七日午後一時より神戸商工  
會議所に於て第二回兵庫縣文化協議會を全縣  
下五十四文化團體により開催、翼賛會文化部  
長高橋建二氏出席各團體より議題を提出協議  
す。當支部より武藤副支部長出席し議題

「一般國民上下を通じて國際知識の普及發揚  
の要あり」

を提案説明し協議を爲した。

歌山商工會議所に於て左記講演會を開いた。  
市内有力者二百餘名出席し盛會であつた。  
「最近の國際重要問題」

本部専務理事 北田 正元氏

### ○長崎支部

### ○長野支部

(會員) 舊甲種四名。

### ○埼玉支部

(會員) 舊甲種四名、舊乙種六四名。

### ○宮城支部

(會員) 舊甲種二二名。

(懇談會) 九月十七日午後二時より縣廳會議室  
に於て本部巡回講演の前特命全權大使堀内謙  
介氏、經濟學博士高垣寅次郎氏の時局問題懇  
談會を開催した。出席者九十名、開會並に閉  
會の辭知事。

### ○青森支部

(會員) 舊甲種九名、舊乙種一名。

(懇談會) 九月十九日午後三時半より青森商工  
會議所講堂に於て本部巡回講演の堀内、高垣  
兩講師の時局問題懇談會を開催した。參會者  
六十名、開會並に閉會の辭和田縣翼賛會庶務  
部長。

(部會) 八戸(特別三名、舊甲種二四名、舊乙  
種一二名) 田名部(舊甲種三名、舊乙種五六

名) 三本木(舊甲種四名、舊乙種二名)に夫  
々部會あり。

### ○五所川原部會(青森)

(會員) 舊甲種八五名、舊乙種一三〇名。

(懇談會) 九月二十日午後一時より中久旅館に  
於て本部巡回講演の堀内、高垣兩講師の時局  
問題懇談會を開いた。出席者七十名、開會並  
に閉會の辭高氏五所川原農學校長。

### ○千葉支部

(會員) 特別三名、舊甲種三名。

### ○宮崎支部

(會員) 舊甲種一九名、舊乙種五名。

### ○福島支部

(會員) 特別一名、通常一二名、舊甲種九名、  
舊乙種四五名。

(懇談會) 九月十六日午後四時半より東北配電  
株式會社福島支店講堂に於て本部巡回講演の  
堀内謙介、高垣寅次郎兩講師の時局問題懇談  
會を開催した。出席者八十名、開會並に閉會  
の辭縣學務部長。

(懇談會) 九月廿六日午後二時より郡山市役所  
に於て堀内、高垣兩氏の時局問題懇談會を開  
催した。出席者七十名、開會並に閉會の辭市  
助役。

### ○米子支部



(會員)終身一名、特別三名、舊甲種五九名、舊乙種九〇名、婦人一二名。

### ○別府支部

### ○福井支部

(會員)舊甲種一五名、舊乙種三〇名。

(懇談會)十一月十三日午後四時より福井市公會堂に於て本部巡回講演の堀内、朝海、松井、鈴木諸講師の時局問題懇談會を開催した。出席者八十名、開會の辭落合市長、閉會の辭佐伯縣内政部長。

(講演會)更に同日午後七時より市公會堂に於て右堀内、朝海、松井、鈴木諸講師の一般公開講演會を開催した。聴衆一千三百名、開會

の辭佐伯縣内政部長、閉會の辭矢野翼贊會縣支部庶務部長。

(講演會)十一月十四日午後七時より敦賀市公會堂に於て右堀内、朝海、松井、鈴木諸講師の講演會を開催、聴衆八百名、開會の辭矢野翼贊會部長、閉會の辭末原市長。

### ○福岡支部

(會員)終身二名、特別一名、舊甲種九名、舊乙種五二名。

### ○山口支部

(會員)通常一名、舊甲種一五名、舊乙種一七名。

### ○函館支部

外務省歐亞局 野口 芳雄氏

(會員)舊乙種一一四名。  
(座談會)六月十二日「水産界の新體制」等時局經濟問題に關し會員座談會を開いた。  
(講演聽講)六月廿四日「圓域經濟に於ける諸問題」杉村廣藏氏、「太平、大西洋の問題」齋藤忠氏の講演を聽講す。

(懇談會)七月廿二日函館外交懇談會と共に正記講演を聽取し懇談會を開いた。

「現下の國際情勢」情報局長 堀公一氏  
(懇談會)九月十二日函館外交懇談會と共に外務省調査部課長朝海浩一郎氏を中心に「現下の世界狀況、附泰國事情」に就て懇談會を開いた。

(講演會)十月十二日左記講演會を開催した。

「ソ聯を中心とする世界情勢」

### ○三重支部

(會員)舊甲種六名、舊乙種五七〇名。

### ○室蘭支部

(會員)特別三名、通常二四名、舊乙種六名。

### ○滋賀支部

(會員) 舊乙種一三六名。

(副支部長) 滋賀支部の創設者にして副支部長として會務に御盡力願つた、近江兄弟社々長吉田悅藏氏十一月十七日永眠さる。謹んで哀悼の意を表す。

### ○奈良支部

(會員) 舊甲種五二名、舊乙種六一名。

### ○弘前支部

(會員) 舊甲種一三〇名、舊乙種七〇名。

(懇談會) 九月廿一日午後三時半より石場旅館に於て本部巡回講演の堀内、高垣兩講師の時局問題懇談會を開催した。出席者七十名、開會の辭羽賀市助役、閉會の辭葛原市長。(講演會) 更に同日午後七時より市公會堂に於て右兩講師の講演會を開催、聴衆七百名、開會の辭葛原市長、閉會の辭羽賀市助役。

## 十四、學生部

### (一) 春季大學(大東亞講座)

恒例の本會主催「學生夏季大學」は御殿場或は輕井澤に於て開催され、其の多大なる成果は各方面から等しく認められたところであるが、昭和十七年度においては學生諸君の都合に依り夏季開催が困難となつたため、之に代るべき新事業として各學校の春季休暇を利用し、第一回「學生春季大學」を東京に於て開催した。

昭和十八年度も亦各方面より頻々と右續行方の要望があり、決戦下學徒の指導啓發に寄與せんがため新構想を以て第二回「學生春季大學・大東亞講座」を開催することとしたのである。

三月廿五日より廿九日に至る五日間毎日午前九時より午後三時迄。會場は東京神田一ツ橋一橋講堂。聽講生人員は約三百五十名で全國大學及専門學校より選抜推薦された。

講師には左記の如く學界、官界、實際家等夫々の權威者を網羅し、新しき角度より研究的に大東亞の建設に必要な諸問題を究明すると共に、實際的立場よりも學徒の指導啓發を行はんとしたのである。

第一日 (三月廿五日)

一、開講式

一、挨拶

一、所感

本會々長 子爵 石井菊次郎

外務大臣 谷 正 之(代讀)

一、南方國民族の土俗と藝術の必然性

第二日 (同廿六日)

一、總力戦と政治

一、金なき經濟に就て

一、帝國外交政策の基調

第三日 (同廿七日)

一、支那の不平等條約撤廢

一、南方の文化政策

一、最近の國際情勢

第四日 (同廿八日)

一、經濟の目的性と國家性

一、宣傳政策論

一、南方事情

第五日 (同廿九日)

一、日獨盟約の精神的基礎

海軍省南方政務部 宮 武 辰 夫

中央大學教授 川 原 次 吉 郎

東京帝大教授 荒 木 光 太 郎

翼贊會調查局長 法 博 鹿 島 守 之 助

東京商大教授 大 平 善 梧

評 論 家 三 木 清

外務省勅任調査官 井 口 貞 夫

評 論 家 木 村 孫 八 郎

慶應大學教授 米 山 桂 三

大東亞省南方局長 水 野 伊 太 郎

獨逸國文化使節 伯 爵 デュルクハイム博士

一、大東亞共榮圈と國際法

一、大東亞外交問題

一、閉 講 式

早稻田大學助教授 一 又 正 雄

前駐米大使 堀 内 謙 介

### (二) 學生懸賞論文

本協會主催恒例の昭和十七年度學生懸賞論文は、全國大學並に專門學校在學生に對して「世界新秩序論」又は「中立制度の現代的意義」の課題を以つて募集、昨年末締切つたが、全國二十六校より多數の應募を得たことは、青年學徒が時局下重要問題に付如何に關心を持ち、且つ熱心に研鑽されて居るかを窺はれ、洵に欣快に堪へぬところである。之等應募論文は審査員井口貞夫、大藏公望、安井郁、藤山愛一郎の諸氏に依り一つ／＼嚴選の結果左の通り當選者の決定を見た。

一等 「世界新秩序論」

東 京 帝 大 鷲 山 文 司 君

二等 「世界新秩序論」

關 西 學 院 大 學 森 田 嘉 一 君

同 「中立制度の現代的意義」

東 京 帝 大 尾 家 重 廣 君

三等 「中立制度の現代的意義」

東 京 帝 大 大 桐 是 信 君

同 「世界新秩序論」  
 同 「世界新秩序論」  
 佳作 「世界新秩序論」  
 同 同  
 同 同  
 同 同

東京文理大 赤石清悦君  
 關西學院高商 堀田信一郎君  
 日本大學 松島精君  
 東京帝大 川口嘉一君  
 東京帝大 江藤肇君  
 桐生高工 C・H・パテル君

### (三) 關東聯合會

(第八〇回例会) 五月九日 午後一時半より協會々議室に於て開催、日ソ通信社編輯長角谷健次氏の「ソ聯の近況と大東亞戰」と題する講演を聴取した。出席者三十六名。講演終了後引續いて研究發表會開催に關する協議を行つた。

(聯合研究發表會) 六月二十七日 午後一時半より協會々議室に於て開催、東京帝大委員平田正九郎君司會の下に「和蘭の蘭印統治政策と我が南方施策の指針」の題下に慶應大學と明治大學が發表を行つた。角井弘君慶大側を代表、和蘭の蘭印統治政策を主として歴史的觀點より仔細に検討したるに對し、治田健一君明大側を代表、主として今後の我が南方國策の見地より建設的論策を發

表、少憩後、各校研究班員の質問あり終始眞摯溢るゝ態度であつた。尙最後に北田總務主事、佐々木部長より講評あり、前後四時間に亘る發表會を終了した。出席者五十名。

(第八一回例会) 十月廿四日 午後一時半より開催、先づ五味新部長より關東聯合會今後の活動につき諸校の意見を徴した所、大體學生の研究發表會よりも講師を主としたる講演座談會或はゼミナール式演習といつたやうなものを主とされたいとの學生諸君の希望があつた。次いで北田總務主事より學生諸君の眞摯なる科學的研究を奨励する懇切なる訓話があり、二時過ぎより「經濟建設の新體制」と題する三興經濟研究所長木村孫八郎氏の講話が行はれた。講話後質疑應答あり、四時半散會。出席者四十名。

(第八二回例会) 十二月五日 本部會議室に於て開催、各校代表學生約六十名の出席あり、朝日新聞東京本社政經部次長河野健治氏より「戰時下の歐米より歸りて」と題し示唆と興味に滿ちた講演を聴取、盛會であつた。

### ○關東學生指導教授會議

二月五日午後五時より丸の内中央亭本店に於て關東學生指導教授會議を開催した。本協會は昨年の總會に於て定款を改正し事業の強化擴充を計つて新發足に就いたが、學生部に關

しても學内機構の改革(報國團設立)に伴ふ事項並に事務局内の組織に就て考究中のところ成案を得たので理事會に第一回の審議を求め、更に之を最終的に検討するため、本會議に於て細目に亙り審議討論の結果別項の如く「學生部規程」を議定したので、三月十五日理事會にその詳細を報告しその承認を得、茲に本規定は確定した。今後は本規程を活用して積極的に活動することになつた。尙右指導教授會議に於ける出席者は次の通りであつた。

◇早大國際法外交研究會 一又正雄氏(會長) 中村宗雄氏(顧問) 大濱信泉氏(顧問) 遊佐慶夫氏(顧問)

◇慶大外政協會 英修道氏(會長)

◇慶大豫科外政協會 堀田周一氏(會長)

◇中大國際問題研究班 川原次吉郎氏(班長) 大越貞一氏(指導)

◇明大海外事情研究部 米田實氏(顧問)

◇明治學院海外文化班 齋藤茂夫氏(顧問) 矢野貫城氏(顧問)

◇立大海外事情研究會 松下正壽氏(會長) 金子尙一氏(顧問) 七里重惠氏(顧問)

◇文理大國際問題研究會 玉井幸助氏(顧問) 谷田澤隆甫氏(顧問)

◇商大國際事情研究班 大平善梧氏(班長)

◇關東學院國際問題研究班 高谷道男氏(班長) 白山源三郎氏(顧問)

◇日本女大外政協會 菅支那子氏(副會長)

◇府立高校外政協會 金子直衛氏(副會長)

◇外務省 小川清四郎氏(調査局第四課長)

◇協會側 堀内謙介(理事) 北田正元(專務) 別府楠彌、五味一夫、佐伯正雄、山形誠一諸氏

#### 日本外政協會學生部規程

第一條 本協會内ニ學生部ヲ置ク

第二條 本協會學生部ハ全國ノ大學、高等學校、專門學校ニ於ケル一般外交、國際法及海外事情等ニ關スル學生生徒ノ研究團體(以下單ニ研究團體ト稱ス)ニ對シ、其ノ教育目的助成上必要ナル聯繫ヲ爲シ以テ帝國外交ノ眞義ニ關スル學生生徒ノ研究ニ便宜ヲ供與スルコトヲ目的トス

第三條 本協會學生部ハ前條ノ目的達成ノ爲メ左ノ事業ヲ行フ

- (イ) 學生生徒ノ研究竝ニ發表ニ對スル補助、但シ研究團體責任者タル教職員ヨリノ申請ヲ要ス
- (ロ) 學生生徒ノ研究援助ヲ目的トスル講師ノ派遣
- (ハ) 全般研究團體學生生徒ニ對スル季節大學ノ開催
- (ニ) 地域別研究團體學生生徒ニ對スル特別講座ノ開催

(ホ) 學生論文募集ニヨル研究ノ獎勵

(ヘ) 本協會機關雜誌其ノ他出版物購讀ニ對スル便宜ノ供與

(ト) 學生生徒見學旅行

(チ) 友好國學生團體トノ聯繫

(リ) 其ノ他學生ノ研究上必要ナル諸種ノ啓發事業

第四條 研究團體ノ統率又ハ指導ニ當ル教授講師中ヨリ本協會學生部委員ヲ委囑ス。委員ノ任期ハ

二年トシ重任ヲ妨ケス。委員ハ本協會學生部ノ事業ヲ援助ス

第五條 學生部委員中ヨリ若干名ノ常任委員ヲ囑託ス。常任委員ノ任期ハ二年トシ重任ヲ妨ケス。

常任委員ハ學生部ノ常議ニ參畫ス

### ○横濱聯合會

六月廿七日 本聯合會主催の下に横濱朝日講堂に於て名士招待講演會を開催。定員三五〇名の會場は學生、市民より成る聴衆にて溢れ盛會であつた。

「印度獨立問題の真相」

本協會總務主事 北田正元氏

「日本文化の世界史的役割」

法政大學教授 谷川徹三氏

### (四) 關西聯合會

(總務委員會) 四月五日 六甲ハウスにて開催。本年度の計畫に付種々協議した。尙本年度より和歌山高商の聯合會の加入が決定、神戸商大の加入も内定した。

(聯合研究發表會) 五月三日 神戸高商に於て開催、大東亞共榮圈の民族問題につき、大阪外語、同志社大學が發表を行ひ、旺な討論の後、神戸高商國際問題研究班長小松泰馬氏の「廣域の法律的性格」と題する講演が行はれた。出席者約六十六名。續いて總務委員會を開催、次回の研究發表會に關し協議した。

(聯合研究發表會) 六月七日 和歌山高商に於て開催、「大東亞建設と華僑問題」に付同志社高商と神戸高商が發表を行ひ、終つて外務事務官柿坪正義氏の「第二次歐洲大戰と印度の動向」と題する講演を聴取した。

(聯合研究發表會) 十月二十五日 於京都烏丸紫明會館、發表校、關西學院—昭和商高、關西學院より西川汀君「和蘭の東印度政策の檢討と我國の方策について」と題する研究發表を行ひ、我國の東印度への方策は如何にあるべきか、和蘭の政策との原理上の相違、又は原理上の修正、實行上の修正等、建設の面に重點を置いた。之に對し、昭和商高は、和蘭の政策の歴史的概觀と我國の

政策に就いて發表し、近來稀なる論戰を展開して聯合會を終る。討論後「日本の對ハワイ關係の變遷」に付理學博士中瀬古六郎氏の講演を聴取した。

(聯合大會) 十一月二十二日、昭和高商に於て開催、京都帝大、同志社大學、神戸商大、關西學院、同志社高商、神戸高商、大阪外語、和歌山高商、昭和高商より八十一名の多數參加したが、本部からは比律賓協會専務理事木村惇氏を特派した外、同會關西支部主事植原善兵衛氏、昭和高商西川、中島兩教授の來賓あり、大阪外語及和歌山高商より「比律賓經濟再編成問題」の研究發表あり、活潑旺盛なる討論が行はれ、引續き此の方面に造詣の深い木村氏の講評があり、終つて同氏より「比律賓事情」に就ての講演があつて盛會裡に終了した。

(總務委員會) 十二月六日、大阪心齋橋明菓に於て昭和高商司會の下に開催、昭和十八年度當番校は一月同志社大學、五月關西學院、六月神戸商大、研究發表は一月京都帝大、神戸商大(民族主義)五月大阪外語、同志社大學(民族文化と世界文化)六月同志社高商、神戸高商(共榮團の經濟立地)と夫々決定し、尙當番校より會計報告があつた。

### (五) 各校の活動

#### ○慶應大學

△四月八日 第一回總會を英會長出席の下に開催、今後の研究方針を決定し、委員の選定をも行つた。出席者二十名。

△四月十五日、三田本部に於て研究会打合を行ひ、擔當者の研究方針を發表。

△四月二十一日 三時より研究会開催、「南方問題研究に當つて」と題し吉崎善夫君、「上海義勇軍に就て」山笠井高夫君が發表。

△五月六日 本年度の研究題目たる「大東亞共榮團」に關する會員各自の研究の題目、對象、方法に就ての發表があつた。

△五月十三日 「研究方法に關して」小川君、「儒教に就て(春秋期の思想)」深井君發表。

△五月十四日 「印度民族問題を中心として」の題下に北田正元氏の座談會を開催した。

△五月二十日 「クローリー・トレイドとマリヤ・ルース號事件」山笠井君發表。

△五月二十七日 「回教中心蘭印瞥見」田中君「儒教に就て(遊説家、法家、兵家、墨子、揚子、名家の思想)」深井君發表。

△六月一日 「東印度より歸りて」の題下に前バタビヤ總領事石澤豊氏の講演會開催。

△六月三日 三田萬來會に於て新入會員歡迎會開催、折柄來校の杉村廣藏氏招待座談會開催。

△六月十日 研究会開催、井上柳三君が「國際關係と觀念闘争」に就き、石黒敬一君が「滿鐵について」と題し研究發表を行つた。

△八月十二日 より十七日迄の六日間輕井澤に

於て研究合宿を行つた。

△十月十四日 研究会ルームに總會を開催、總務吉崎君より庶務報告、輕井澤に於ける夏季合宿の報告あり、次いで今學期に於ける研究会事業の一つとして「西亞及び北阿」を研究題目とし、夫々擔當を分けて研究發表を行ふこととした。

△十一月十六日 堀田教授豫科會長就任歡迎會を本科、豫科合同にて開催、英本科會長、堀田豫科新會長より時局講演あり。

△十一月二十日 英會長の本學期第一回時局講話會を開く。

△十一月二十七日 研究会を開き、長戸君より「アラビヤに對する地理的一般考察と英國の對アラビヤ政策」に關し發表あり。

△十二月二日 英會長を中心に時局座談會を開く。

△十二月四日 研究会を開き、内藤君より「イラン前史と古代史」に就き發表あり。

△十二月五日 部員有志十七名を以つて豊多摩刑務所を見學す。

△二月十九日 研究發表會開催、田中通久仁君「アラビヤについて」と題し、アラビヤの歴史についての概觀を發表す。

### ○慶大豫科

△四月十五日 總會開催、本部よりの委員出席の下に、本年度活動の具體的方針に就き種々協議した。

△十一月四日 日吉研究室において、今般新大

に慶應外政研究会豫科支部長に就任せられた堀田周一先生をはじめ部員十二名出席の下に「近世ヨーロッパ植民史」中の「英國世界制覇の基礎」につき小川君の研究發表があつた。

△十一月十二日 研究会を開き小川君より「十六世紀初頭の英國エリザベス時代の經濟状態」の發表あり。

△十一月十六日 には本科と合同にて堀田新會長歡迎會を開催す。

△十一月十八、九日 研究会を開く題目は「英國植民活動の先驅」。

△一月十四日 研究發表會を開く、題目「北米に於ける英國植民の基礎」發表者黒河内君。

### ○早稻田大學

△五月二日 三菱經濟研究所員山崎清氏を聘して「米國の對中南米經濟依存」の題下に研究会を開催。

△五月二十三日 慶大教授英修道氏を招いて、「對支基本國策の展開」に關する研究会を開催した。

△六月十三日 外務省情報官箕輪三郎氏を招待して「大東亞共榮圈における文化工作の基本問題」と題する講演を聴取した。

△十月十一日 實行委員、幹事は一又指導教授宅に集合、會の新組織、招聘講師の決定、グループ研究、個人研究の方法、月報の發行、研究成果の刷物、讀書の選定、文化部門研究、會員親睦の方法等に就て協議した。

△二月二十日 法學部教室に於て先輩三菱經濟



研究所の山崎清氏を招き經濟問題につき活潑なる座談會を開催。

△二月二十七日 「戦争の現段階と國際情勢」と題して、前駐米大使堀内謙介氏の講演會を開催。終了後、幹事及有志は堀内氏を圍み座談會を開いた。

### ○明治大學

△四月八日 新入部員募集のポスター、檄、紹介書を掲示。十日より十五日迄募集演説及個人勸誘を行ひ多大の成果をあげた。

△五月六日 研究發表會開催、小西明君が「學生生活の指針及反省」に就き發表し「獨ソ春季攻勢」「印度問題」に就き全員討論した。

△五月八日 研究發表會、吉田二郎君「廣域國

と全體主義計畫經濟理念」につき、鈴木邦義君が「研究發表の方法」につき發表。

△五月十三日 新入部員歡迎會、席上名譽顧問米田實博士の「一般世界情勢」に關する解説が行はれた。

△五月十八日 「蘭印植民政策」に關する討論會を開催した。

△五月二十六日 坂部護郎氏を聘して「戦争と外交」と題する講演を聴取した。

△六月二日 「蘭印植民政策の批判」の題下に顧問米田實氏の講演を拜聴した。

△六月五日 研究發表會「蘭印の民族問題」田中君、「蘭印の宗教對策」横田君。

△六月十七日 南方事情研究部と合同にて「蘭印問題」に關する討論會を開催した。

△六月二十二日 「和蘭の植民政策」に就き小島教授の解説を伺ふ。

△六月二十三日 「蘭印問題」に就き全部員の討論會を開催した。

△六月二十四日 南方事情研究部と「和蘭の植民政策」に就き討論會を開いた。

△六月二十五日 「和蘭の植民政策」に就き大鹽教授の解説があつた。

△七月六日 委員會を開催、研究部研究態度の再認識、各研究部門の人事の異動、研究班の再組織等に就て協議した。

△七月十日 「ソ聯の動向」に就て佐々木君が「一般世界情勢に就ての一考察」と題し鈴木君が、夫々發表を行ひ、「國際情勢週間の動き」に就き全部員の討論を行つた。

△七月十四日 「南洋社會組織及人口問題と華僑」に就き吉川君が、「ドイツ國土計畫に基く歐洲情勢」に關し田中君が研究發表を行つた。

△七月十五日 第一學期納會を部長中川教授、顧問米田博士出席の下に開催、席上米田博士の「歐洲情勢並びに南米情勢」に關する解説があつた。

△九月十三日 第二學期總會、米田、中川兩教授出席の下に開催、委員より二學期中の計畫を發表、中川部長より新學期に入りての挨拶ありたる後、米田教授の世界情勢に就いての解説ありて終了。

△九月二十五日 第八十八回卒業生送別會を開催、米田博士の言葉として「常に準備をなし置く可し」の處世訓、中川部長の祝辭、石川委員

長の送別の辭、前委員長鈴木邦義君の答辭あり  
盛會裡に終了。

△十月十日 「大東亞戰と民族問題」と題して  
横田謙之助君の發表あり、活潑なる質疑應答を  
なす。終つて「週間の動き」に付討論す。

△十月十五日 「大東亞共榮國內に於ける民族  
政策」と題して、森山君研究發表をなす。續い  
て、ゼミナール開催、命題(1)米英國内問題(2)英  
國と印度の動向(3)米國と中南米諸國の動向、石  
川委員長司會者となり各學生の意見發表あり眞  
劍なる討論をなして終了。

△十月二十三日 ゼミナール開催、命題「米國  
と中南米の動向」吉田二郎君司會。

△十月二十七日 稻原勝治氏を招き、解説並に  
座談會を開催、「世界情勢の解剖」と題して約

三時間にわたり、主にソ聯を中心とした世界情  
勢の辛辣なる解剖をなし、現在戦つてゐる樞軸

側と反樞軸側との軍事力、經濟力の比較あり、  
最後に國內問題の批判、解剖ありて、質疑應答  
後盛會裡に終了。

△十一月十一日 「印度問題」同二十一日  
「トルコの動向」に就てゼミナールを開く。

△十一月二十八日 同校記念館に於て國際事情  
研究部大會を開催し、左の如き講演及映畫あり  
非常に盛況であつた。尙當日は本部を初め各校  
より多數の來賓あり、右大會終了後建川中將閣  
下を中心に座談會を開きたり。

一、講演 前全權大使 建川美次氏

一、映畫「空の神兵」 法學博士 米田 實氏

△十二月十一日 學術研究部綜合發表大會に當  
り研究部より石川清君の「國研現況報告」吉田二  
郎君の「米英對支侵略外交と日本」なる發表が  
あつた。

### ○東京商大

△四月二十四日 外務省アメリカ局事務官、竹  
内春海氏を聘して「現下のアメリカ情勢」と題  
する講演を聴取。

△五月二十一日 外務省人事課長門脇季光氏を  
聘して「外務省官吏の地位並びに使命」と題す  
る講演會開催。

△讀書會 シヤルル・ローブカン著「佛領印度  
支那經濟發達史」をテキストに使用し、佛領印  
度支那の政治・文化・交通・工業・農業・貿易

・フランスの植民政策を分擔報告せしめた。

△共同研究 經濟を中心とする支那問題を共同  
研究の豫定、と同時に支那の性質上諸外國間の  
外交問題も等閑に附さず研究。

△十月二十八日 午後三時より天羽英二氏の講  
演會を開催す、演題は「現戰爭に於ける世界の  
動きと其の將來」であつた。終つて天羽氏を圍  
んで座談會を開催。

△十一月五日 外務省勅任調査官井口貞夫氏を  
招き講演會を開催、演題「戰時下のアメリカ」  
であつた。

### ○東京商大豫科

△五月二十五日 外務省調査部第五課長朝海浩  
一郎氏を招いて「最近の世界情勢に就て」と題

する講演を聴取した。

△十月九日 先輩小林元氏(三菱商事社員)より中南米の經濟事情を中心に國內狀勢に關する講演を聴取した。

### ○東京帝大

△四月二十八日 三時より左記紹介講演會を開催した。

「大東亞戰爭と世界の將來」 天羽英二氏

△五月十二日 貿易統制會理事杉村廣藏氏の講演會「日支經濟の課題」。

△五月二十一日 「日支關係の政治問題」に就き前九大教授東亞研究所員今中次廣氏講演。

△五月二十二日 日ソ通信社編輯長角谷健次氏講演「獨ソ戰の展開とソ聯の戰時態勢」。

△五月二十六日 横田喜三郎教授の演習「非交戰狀態の法理」を行つた。

△五月二十九日 「廣域經濟の問題」に關し中山伊知郎講師の演習。

△六月九日 國際法演習「非交戰狀態の法理」横田教授。

△六月十二日 廣域經濟論「東亞共榮圈の貨幣問題」中山伊知郎氏。

△六月十九日 講演「高文と外務省」外務省人事課長門脇季光氏。

△六月二十三日 國際法演習「非交戰狀態の法理」横田教授。

△六月二十六日 講演「東亞問題」外務省東亞局長兼アメリカ局長山本熊一氏。

△七月三日、十日、十七日 國際政治論「世界

新秩序の諸問題」神川教授。

△七月七日 國際法問題「非交戰狀態の法理」横田教授。

△七月八日 講演「イランより歸りて」市河彦太郎氏。

△十月二十三日 紹介講演會、永井柳太郎氏。

△十二月一日 野村前駐米大使を圍む座談會。

△十二月十日 安井助教授演習、「國際法思想の歴史的展開」。

△一月二十一日 駐ソ大使館參事官、宮川船夫氏を圍む座談會。

△二月二日 東洋文化研究所員植田捷雄氏を圍む座談會「租界の本質」。

△二月六日 芳澤駐佛印大使を圍む座談會。

△二月二十五日 安井助教授を圍む座談會「廣

域圈に付いて」。

△三月四日 立教大學教授松下正壽氏を圍む座談會「米洲廣域國際法」。

△三月十八日 大川周明氏の講演會、「大東亞の精神」。

### ○明治學院

△五月十六日 新入班員歡迎會を兼ねて「大東亞講座報告會」開催。

△五月二十二日 東亞經濟研究所の谷山整三氏を聘して「大東亞共榮圈と資源の轉換」の題下に大東亞講座開催。

△六月十二日 大東亞講座として南方軍政最高顧問砂田重政氏の「余の南方建設の構想」と題する講演會を開催した。

△六月十六日 委員會開催、研究会開催に關し協議した。尙豫科研究会アメリカ班は「フイリツピン」の研究を、東亞班は「支那經濟地理」の研究を續けてゐる。

△三月五日 先輩、外務省勤務員原正一氏より「アメリカより歸りて」の講演聴取。

### ○青山學院

△六月六日 發表會、田澤十郎君「ビルマに就ての一般的考察」田澤文郎君「春李大學講座の報告及感想」。

△六月二十三日 研究發表會を開く、八木橋秀夫君「フイリツピンに就いて」「東亞共榮圈の資源に就いて」田澤十郎君「蘭印に關する一般概念」。

△十一月十六日 學院創立六十周年記念日に當り一般世界情勢の研究會を開く。

△十一月十八日 學院創立記念講演會を開催し永井柳太郎氏より「思想戰の士官學校」なる講演あり、約千五百名の全學院學生が聴講した。

△十一月二十四日 研究會を開き田澤文雄君より「北阿戰局」に就き發表あり。

△十一月二十五日 研究會を開き田澤十郎君より「今昔の日本外史」及び大東亞省の設置に關し發表があつた。

△十一月二十八日 報國團講演部主催の校内講演會に部員田澤十郎君出席し「日本外交に就て」講演をなした。

### ○中央大學

△五月十二日 本部専務理事北田正元氏を招いて「大東亞戰爭の終局」と題する講演會を開催した。

△六月二十五日 「大東亞共榮圈成立の必然性」の論題の下に學生論文發表會を開催、入選者を決定した。

### ○横濱高商

△六月二十四日 會長徳増榮太郎教授の「滿洲事情に就て」と題する講演を聴取した。

### ○關東學院

△五月二十二日 「日本の新世界觀」の題下に加瀬、岡本兩君發表。

△七月二日 本校圖書館に於て市内三專門合同討論會を開催した。

論題「東亞共榮圈産業立地計畫」

△七月九日 本校講堂に於てボルネオ殖産社長佐藤正氏の「南洋概觀」と題する講演會を開催した。

△八月四日 横濱三專門討論會開催、命題「大

### ○東京文理大

△五月十八日 講演會を開く、講師外務省課長朝海浩一郎氏「最近の國際情勢」。

△九月十日 先輩ジャワ鐵道省總務部長吉井政信氏を聘して「南方事情」の題下に鐵道を通じて見たジャワ概觀並にジャワ人の日本人觀等に關する興味深い講演を聴取した。出席者約八十名、有意義な會合であつた。

東亞共榮圈に於ける産業立地計畫

△十月十五日 「南方華僑の問題」につき、小川君の研究発表。

△十月二十二日 「南方農業の特異性」につき木村君の発表、「南方共榮圈の金融政策」につき阿部君の発表何れも指導教授は高谷道男氏。

△十一月四日 「経済學における理論と政策の交渉」と題し木川敏一氏を指導教授として學院校内討論會を開催。

△十一月十二日 朝日講堂に於て左の名士講演會を開催。「經濟済民の道としての經濟」早大教授酒枝義旗氏、「愛國」文士中河與一氏。

△十一月十八日 研究発表會を開き、高谷道男教授より「東亞プロテストメント傳道の起原」の発表。

△十一月二十一日 南方研究発表會を開き、石原一英君より「大東亞共榮圈確立の原理」太田俊作君より「南方地質論」に就て夫々発表があつた。

### ○關 西 學 院

△四月八日 大詔奉戴日、記念講演座談會を開催、武内辰治氏の「世界新情勢の展開」と題する講演を聴取した。

△四月十日 商經學部研究室に於て協會主催の「大東亞講座」に出席した小山民男、森田嘉一兩君の報告會を開催した。

△四月十六日 研究会開催、「大東亞共榮圈の民族問題」に關し小山君が解説、一同討論。

△四月二十三日 研究会、「大東亞共榮圈と南

方華僑」につき森田嘉一君発表。

△四月三十日 新入部員歡迎會を兼ねて總會を開催、本年度事業計畫、研究方針等報告。

△五月二十一日 「華僑問題」小山民男君発表。

△五月二十七日 「佛印の華僑に就て」上松幸雄君発表。

△五月二十八日 元九大教授今中次麿氏を聘して「支那問題」に關する講演會開催。

△五月二十九日 今中次麿氏を圍み「民族と世界」の題下に座談會開催。

△六月四日 研究会を開催、「馬來の華僑に就て」西川汀君、「泰の華僑に就て」長谷川一郎君、「比律賓の華僑に就て」池本範夫君。

△六月十八日 研究会を開催した。「和蘭の東印度植民政策の一考察」森田嘉一君、「民族論」

須原喜八郎君。

△六月二十日 座談會開催、小松堅太郎教授の「民族と民主主義」と題する講演を聴取し、終つて同教授を圍み質問を行つた。

△六月二十五日 研究会「和蘭の東印度農業政策を論ず」池本範夫君、「和蘭の東印度政策檢討」西川汀君。

△六月二十七日 縦の會（先輩との交驛會）開催、本年度夏期合宿の計畫を發表、機關誌「恒平」發行に對する援助を願ふ等種々懇談した。

△七月二日 研究会「植民とは」長谷川一郎君「各國の南方植民地貿易政策」光本博一君「和蘭の東印度植民政策の批判」西川汀君。

△七月九日 研究会「蘭印の民族運動と植民政策」須原喜八郎君発表。

△七月十六日 講演會「文藝復興と學生々活」  
竹中郁氏。

夏期合宿 七月二十二日—二十七日。

△七月二十二日 座談會「南洋の雜觀」森田嘉一君司會。

△七月二十三日 研究會「轉換期について」森田嘉一君發表、「ヘルマンの豫言の検討」林重夫君司會。座談會「辯證法の論理」森田四一君發表司會。

△七月二十四日 研究會「轉換期の本質（社會的考察）」小山民男君發表、「轉換期の民族主義」須原喜八郎君發表、座談會「現代學生論」小山君司會。

△七月二十五日 研究會「大英帝國の性格と構造」西川汀君發表、「大東亞共榮團の構想」長

谷川一郎君。座談會「經營經濟學の本質」松本康正君發表、「文化哲學について」林重夫君發表、「經濟學の革新」小泉正三郎君司會。

△七月二十七日 研究會「世界戰局の動き」池本節夫君司會。

△十月十三日 研究會「植民の現代的意義」森田嘉一君發表。

△十月二十日 研究會「和蘭の東印度統治政策の検討と我國の政策」西川汀君發表。

△十月二十二日 研究會、西川汀君「和蘭の東印度政策の検討と我國の方策について」の發表を行ふ。

△十一月十三日—十七日 時局展覽會開催、學院創立五十三周年を記念し、情報局、翼賛會、新聞社、獨、伊領事館、滿鐵、その他より資料

出品を得、第一會場（世界新秩序建設へ、大東亞共榮團）第二會場（獨伊展）に分ち陳列し、頗る盛況を極めた。

△十一月二十一日 研究例會を開き、森田嘉一君より「比律賓に於ける經濟再編成を論ず」の發表。

△十一月二十四日 座談會を開き、野村東印度殖産取締役森田歳一氏より「濠洲抑留より歸りて」を聴取。

△十二月四日左の講演會を開催す。

「現代文學の宗教的意義」本校教授志賀勝氏  
「經濟と宗教」早大教授酒井義旗氏。

△十二月十一日 左の講演を聴く、「大東亞戰と工業建設」商工省吉田秀夫氏、「歴史的現在と世界觀學」早大教授大江精志郎氏。

△十二月十五日 研究會、林重夫君より「歴史哲學と政治哲學」に就て、森田嘉一君より「大東亞金融の構想」に就て夫々發表あり。

△十二月十八日 大阪毎日副主筆赤坂清七氏を招き「大東亞戰爭と世界の動向」と題す講演を聴き、引續き同氏を圍み座談會を開く。

△十二月二十一日 研究會を開き、林重夫君より「實在の基底」の發表あり。

△一月十二日 研究會「民族主義の性格と新秩序の問題」須原喜八郎君發表。

△一月二十六日 「廣域圖的世界新秩序論」森田嘉一君發表。

△二月二日 「政策と可能性」と題し、大阪商大福井孝治教授の講演會を開催。

△二月三、四日 讀書研究會チェレイン著「領

士、民族、國家」森田嘉一君發表、教授古賀美貞博士を中心に論議。

△二月九日 研究會「國家への道」林重夫君發表。

△二月十六日 研究會「華僑の複雑性に關する一考察」廣幸俊彦君發表。

△二月十七日 讀書研究會、正田啓造君の發表あり。

△二月十八日 讀書研究會、古屋教授を中心に討論。

### ○神戸商大

△四月二十二日 新入班員歡迎會、野田君「大東亞共榮圈の民族問題」につき發表。

△四月以降毎週木曜日「國際法」(横田喜三郎著)

をテキストとして副部長川上太郎教授指導の下に研究會を開催した。

△五月二十一日 鐘紡專務取締役井上潔氏を招いて講演會「東亞共榮圈と纖維資源」。

△六月十二日 研究發表會、發表者廣岡敬三君「我國近世徒制度に就て」

△六月十七日 研究發表會「印度問題に就て」岩佐義一君。

△六月十八日、六月二十五日 國際法讀書會、川上助教授指導。

△六月二十二日 研究會「タイ國憲法に就て」佐藤多喜藏君。

△六月三十日 研究發表會「東亞共榮圈の機構的分析」高良武士君。

△十月二十一日 藤井助教授より「大東亞貿易

の性格」に就き研究發表を願ひ、引續き座談會を開催した。

△十月二十八日 讀書會。

△十月三十日 研究會、上田宇一君より「東亞農業の特質とその展望」を發表。

△十一月六日 讀書會。

△十一月七日 研究會、前回に引續き上田君の發表。

△十一月十三日 研究會、高良武士君より「帝國主義と八紘一字主義との相異」を發表。

△十一月十四日 讀書會。

△十一月十六日 名士招待講演會を開催し「南方、特に比島の産業開發に就て」と題する古川

拓殖社長古川義三氏の講演あり。

△十一月十九日 讀書會。

△十一月二十日 研究會、岩佐義一君の「滿洲の鑛工業と資本」につき發表。

△十一月二十六日 讀書會。

△十一月二十七日 讀書會。

### ○大阪外語

△四月十四日 午後三時より「ジャワに就て」の題下に十數年ジャワにあつて活躍された回教僧小野伸治氏の講演を聴取した。

△五月一日 「支那に於ける民族運動」の題下に講演班との合同討論會を開催。

△五月二日 相澤班長、白井班指導教授引率の下に電氣科學館を見學。

△五月十四日 研究發表會、古橋敏男君「回教」に就て發表。

△五月二十八日 「華僑」高谷達郎、福原清兩君發表。

△五月三十日 鐘紡淀川工場見學。

△六月二十日 大阪地方海軍人事部後援の下に映寫會を開催した。人事部提供のフィルムは、「勝利の基礎」「勝利の記録」「潜水艦」等。

△七月一日 滿洲國治安部の中島學自氏を中心に、「大東亞戰下の滿洲國」に關する質問座談會を開催した。引續き研究會開催「英米の中南米政策」に關し飾磨、羽田、金村三君が發表を行つた。

△七月七日 大阪商大教授淺香末起氏を聘し、「南洋經濟と華僑問題に就て」の題下に講演會を開催。

△八月二十七日 釋鷗齋氏の講演會を開催。

△九月二十九日 研究會「フィリッピンの言語と國民性」飾磨進君。

△十月二日 研究會「マレー語の概念」濱口康行君。

△十月六日 研究發表會「濠洲事情」小浦博君。

△十月十二日 「オランダの對蘭印植民政策の検討」の題下に濱田、野副兩君の發表があつた。

△十月二十日 福原君の支那經濟組織中重要な役割をなせる「買辦」について、研究發表があつた。

△十月二十七日 「大東亞の教育問題」について岡君が研究發表を行つた。

△十一月四日 アラビア語教授林昂氏の「所謂アラビアの性格と回教の風土學的究明」と題する講演。

△十一月十三日 研究會、奥田泰治君より「支那の人口と農業」の發表あり。

△十一月十七日 委員集合し「フィリッピン經濟再編成」の論文を作成す。

△十一月二十五日 大毎特派員前芝雄三氏より「世界戰とソ聯の動向」と題する講演を聴取す。

### ○昭和 高 商

△四月十一日 「英國經濟史」と題し玉置禎夫君より發表あり。

△四月二十四日 「ロシア經濟史」岸本泰男君より發表あり。

△四月二十九日 「印度の獨立に付いて」と題し今中弘毅君の發表あり、「支那の民族性」に付き田井正男君の研究發表あり。

△五月四日 「經理統制令の重要性」と題し岸本泰男君より發表。

△五月八日 「法と經濟」と題し黒田喜一君より發表。

△五月九日 「東亞廣域經濟の構成」と題し岡村智君より研究發表あり、活潑な討論をなす。

△五月十五日 「神皇正統記に表はれた日本人及び日本人の道」と題し北尾善郎君より研究の成果を發表。

△五月十六日 「政治と經濟」と題し佐々木曉治君より研究發表。

△五月十八日 「戰爭の文化性」と題し野本恒雄君、加藤嘉男君より夫々研究發表あり。

△五月二十一日 「技術」と題し板谷昂造君より研究發表あり。



△五月二十四日 本校に於て全國大學、高專學術研究討論大會開催、當班よりも班員多數出席し、「戦争の文化性に就て」野本君、「技術」に就て坂谷、岸本兩君、「政治と經濟」に關し馬場君發表。

△六月六日 論題「東亞共榮圈建設と華僑問題」發表者石隈、田口、谷村、今井、西松諸君。

△六月十一日 論題「東亞共榮圈に於ける貿易對策」發表者森良治、加藤正秋兩君。

△六月二十七日 讀書會「外交評論」六月號。

△八月二十四日 「和蘭對東印政策を論ず」發表者川下、岡村兩君。

### ○神戸女學院

△五月二十九日 前年度よりの南方研究會の繼

續として比島に關する研究發表を行つた。「地理に就て」阿部、永松兩嬢發表。「政治、歴史に就て」西川嬢發表。「社會・文化に就て」富田、山城嬢發表。

△六月十三日 史蹟見學として大和榮山寺並びに和歌山城址を見學した。

△六月十九日 南方研究會、前回に引續き、比島の社會文化に關する發表の後討論を行つた。

討論の中心は比島の獨立問題と米國との關係及び比島の歐米文化輸入と日本のそれとの相違に就てであつた。

△六月二十四日 南方研究會、比島の經濟に關する白山、岸本兩嬢の研究發表後、質問討論あり、最後に和島教授の比島全般に關する結論的な講話あり、比島に關する研究を一先づ終了。

### ○和歌山高商

△四月十八日 本校體育館階上で新入班員の歡迎會を盛大に催し、今後の活躍を誓ふ。

△四月二十日 春季大學「大東亞講座」の發表會を行ふ。

△四月二十一日 大々的な論文募集を發表す。締切五月二十日迄。

△五月二十七日 海軍記念日記念講演として海軍機關大佐中島一郎氏の「マレー方面海戰參加所感」と題する講演あり。

△五月二十九日 滿鐵社員三名を聘して同社の事業並びに滿洲事情に關する講演會開催。

△五月三十日 新班長島恭彦教授の歡迎會を兼ねて聯合會準備打合せを開催した。

△六月二十六日 島教授を議長に仰ぎ、三年生と二年生に分れて對抗討論會を催す、論題「廣域經濟」。

### ○神戸高商

△四月二十四日 小松班長出席の下に國守一正君の「民族小論」を中心に討論を行ふ。

△四月二十八日 聯合會の準備打合せを行ひ、次いで民族政策につき意見を交換す。

△五月二十七日、二十九日、六月五日 岸寬一君の聯合會發表演文を中心に討論を行ふ。

△十一月十日 研究會を開く、國守君の「大東亞文化共榮を論ず」を發表。

△十一月十三日 「東亞共榮圈の海運諸問題」と題する新班長谷口教授の講演を聴く。

△十一月二十五日 研究会を開き、山本君より「工業立地に於ける戦争因子」を發表。  
△十二月一日 研究会を開き、國守君より「廣域文化」に就き發表。

△十二月七日 研究会を開き、寺田君の「國土計畫の性格に就て」の發表あり。

△二月六日 先輩諸氏の「アメリカより歸りて」「バタアン半島」と題する講演を聴く。

△二月八日 佛印駐在內山公使の「佛印に就いて」の講演を聴取。

△二月十五日 康徳學院主事土岐八郎氏より滿洲及共榮圈各地の現状につき解説をきく。

△二月二十日 片山君「共榮圈の産業立地の因子」なる論文を發表す。

△二月二十六日 時局座談會を開く。

△三月一日 中家君「東亞地政學の一考察」と題し發表す。今後「國際論集」發行不可能の爲班員論文を一括して回覽誌を毎月作成。

### ○東北帝大

△四月十日 かねて計畫中であつた日比青年文化協會東北支部との合併を實現して、當國際問題研究會は「大東亞協會」として新發足をなすこととなつた。

△四月十一日 山脇助教の「日米紛争四十年」と題する講演を聴取した後、委員の協會事業紹介あり引續き新入會員歡迎會を舉行、席上仙臺蘭印同志會會員を招いて蘭印方面の事情に關する座談會を行つた。

△四月十八日 小谷助教指導の下に、田岡良

一著「國際法」を教材とし隔週土曜日講演會を開催。

△十月十九日 學部教授伊藤實氏より「皮膚の色」なる講演あり。

△二月二十七日 日滿華學生會を開催。學生らしき率直さと熱情を傾け民族協和の一點に論點を盛り上げ忌憚のない意見を交換した。

### ○小樽高商

△四月十一日 大野、高橋、木曾三教授出席の下に役員總會を開催、先年度事業報告あり、本年度事業内容に就き懇談す。

△四月十六日 「大東亞共榮圈と戦後の景氣」と題する高橋次郎教授の講演を聴取、引續き質問應答を行つた。

### ○北海道帝大

△四月二十八日 新入部員歡迎會開催、席上委員長山村亨君より支部の説明あり、支部長和田禎純教授の講話があつた。

△五月十二日 討論會を開催、委員稻川幸智君の「印度問題」に關する説明後旺んな討論を行つた。

### ○大連高商

△班長福海潮教授辭任せられ、高木眞助教授が新班長に就任された。

△四月十四日 高木班長出席の下に新入班員の歡迎會を兼ね開催。引續き鮎川君の昨年度夏期大學の實況と永井君の「南方植民政策に就いて」

の研究発表あり。

△四月二十六日 鮎川君の「蘭印を中心として見た回教問題」の研究発表あり、種々質疑討論した。

△六月一日 講演會、滿鐵調査部の坂本峻雄氏の「ソ聯について」の講演、二時間餘に渡つて有益な視察談を拜聴し、我々の北方に對する覺悟を新にした。

△六月二十日 永井君の「資源解放戦」と題する研究論文発表があつて、活潑なる討論があつた。

### ○高岡高商

△七月十九日より二十三日の五日間に互り、福井縣下六ヶ所に對し講演旅行を行ふ。本校講演

班と共同主催にて當班より班員三名(班長同行)

参加す。演題左の如し。

細野教授「世界を震撼した六〇時間」「帝國の南方統治問題」

利光平三郎君「敗戦米英と船舶問題」

外村善郎君「國際決濟制の過去及將來」

加藤一夫君「大東亞戰爭の歴史的意義」

## 十五、日本外政協會會務日誌

(本日誌は協會の凡ゆる方面の活動を日附順に羅列したものである。詳細は各項目に就て参照せられたし)

### 〔昭和十七年四月〕

一日 ▲「外交評論」四月號  
刊行 ▲「世界と我等」四月號  
刊行  
五日 ▲學生部關西聯合會第一回總務委員會  
八日 ▲慶應學生部總會 ▲武内氏講演會(關學學生部)  
十日 ▲法華津氏午餐談話會  
▲關學學生部研究會

十一日 ▲昭和商學生部研究會 ▲山脇氏講演會(東北大學學生部) ▲東北大學學生部座談會 ▲小樽高商學生部總會  
十四日 ▲定款改正委員會 ▲婦人部協議會 ▲大連高商學生部研究會  
十五日 ▲慶應學生部研究會  
▲慶應豫科學生部總會  
十六日 ▲太平洋問題調查部協議員會 ▲關學學生部研究會

▲高橋氏講演會(小樽高商學生部)  
十八日 ▲和歌山高商學生部總會 ▲東北大學學生部研究會  
二十日 ▲和歌山高商學生部研究會  
廿一日 ▲婦人部研究會 ▲慶應學生部研究會  
廿二日 ▲神戸商大學生部研究會  
廿三日 ▲關學學生部研究會

廿四日 ▲二見氏午餐談話會  
▲竹内氏講演會(東京商大學生部) ▲昭和高商學生部研究會 ▲神戸高商學生部討論會  
廿六日 ▲大連高商學生部研究會  
廿八日 ▲坪上氏午餐談話會  
▲天羽氏講演會(東大學生部)  
▲神戸高商學生部討論會 ▲和田氏座談會 北海道大學生部)  
廿九日 ▲昭和高商學生部研究會  
三十日 ▲婦人部研究會

〔五月〕

一日 ▲「外交評論」五月號  
刊行 ▲「世界と我等」五月號  
刊行 ▲大阪外語學生部討論會  
二日 ▲山崎氏座談會(早大學生部)  
三日 ▲學生部關西聯合研究發表會  
四日 ▲昭和高商學生部研究會  
五日 ▲太平洋問題調查部協議員會  
六日 ▲慶應學生部研究會 ▲明大學生部研究會  
八日 ▲明大學生部研究會 ▲昭和高商學生部研究會  
九日 ▲第八〇回關東聯合會例會(學生部) ▲昭和高商學生部研究會  
十二日 ▲松村氏講演會(東大學生部) ▲北田氏の講演會(中大學生部) ▲北海道大學生部討論會

部討論會  
十三日 ▲慶應學生部研究會 ▲米田氏座談會(明大學生部)  
十四日 ▲北田氏座談會(慶應學生部) ▲大阪外語學生部研究會  
十五日 ▲昭和高商學生部研究會  
十六日 ▲明學學生部研究會 ▲昭和高商學生部研究會  
十八日 ▲明大學生部研究會 ▲朝海氏講演會(東京文理大學生部) ▲昭和高商學生部研究會  
十九日 ▲第一回外交懇談會  
二十日 ▲建川氏午餐談話會 ▲慶應學生部研究會  
廿一日 ▲門脇氏講演會(東

京商大學生部) ▲今中氏講演會(東大學生部) ▲關學學生部研究會 ▲井上氏講演會(神戸商大學生部) ▲昭和高商學生部研究會  
廿二日 ▲第五四回特別調查委員會 ▲角谷氏講演會(東大學生部) ▲谷山氏講演會(明學學生部) ▲關東學院學生部研究會  
廿三日 ▲英氏座談會(早大學生部)  
廿四日 ▲昭和高商學生部研究會  
廿五日 ▲朝海氏講演會(東京商大豫科學生部)  
廿六日 ▲坂部氏講演會(明大學生部) ▲横田教授の演習

(東大學生部)  
廿七日 ▲慶應學生部研究會 ▲中島氏講演會(和歌山高商學生部) ▲神戸高商學生部討論會  
廿八日 ▲岩永氏談話會(婦人部) ▲婦人部研究會 ▲關學學生部研究會 ▲大阪外語學生部研究會  
廿九日 ▲石澤氏午餐談話會 ▲中山講師演習(東大學生部) ▲今中氏座談會(關學學生部) ▲神戸女學院學生部研究會 ▲和歌山高商學生部座談會 ▲神戸高商學生部討論會  
〔六月〕  
一日 ▲「外交評論」六月號

刊行 ▲「世界と我等」六月號  
刊行 ▲石澤氏講演會(慶應學生部) ▲坂本氏講演會(大連高商學生部)  
三日 ▲杉村氏座談會(慶應學生部) ▲米田氏講演會(明大學生部)  
四日 ▲内田氏午餐談話會 ▲砂田氏講演會(神戸支部) ▲關學學生部研究會  
五日 ▲明大學生部研究會 ▲神戸高商學生部討論會  
六日 ▲柿坪氏講演會(大阪支部) ▲青學學生部研究會 ▲昭和高商學生部研究會  
七日 ▲學生部關西聯合研究發表會  
八日 ▲「南方外交史話」刊

行

- 九日 ▲横田教授演習(東大學生部)
- 十日 ▲婦人部研究会▲慶應學生部研究会
- 十一日 ▲昭和高商學生部研究会
- 十二日 ▲時局經濟問題座談會(函館支部)▲中山講師演習(東大學生部)▲砂田氏講演會(明學學生部)▲神戸商大學生部研究会
- 十三日 ▲箕輪氏座談會(早大學生部)
- 十六日 ▲明學學生部研究会
- 十七日 ▲明大學生部討論會
- ▲神戸商大學生部研究会
- 十八日 ▲關學學生部研究会

- ▲神戸商大學生部研究会
- 十九日 ▲婦人部研究会▲第二回外交懇談會▲門脇氏講演會(東大學生部)▲神戸女學院學生部研究会
- 二十日 ▲小松氏講演會(關學學生部)▲時局寫真映寫會(大阪外語學生部)▲大連高商學生部研究会
- 廿二日 ▲第一八四回理事會
- ▲小島氏座談會(明大學生部)
- ▲神戸商大學生部研究会
- 廿三日 ▲明大學生部討論會
- ▲横田教授演習(東大學生部)
- ▲青學學生部研究会
- 廿四日 ▲婦人部研究会▲横山氏午餐談話會▲明大學生部討論會▲德増氏講演會(横濱

- 高商學生部) ▲神戸女學院學生部研究会
- 廿五日 ▲大鹽氏座談會(明大學生部) ▲中大學生部研究会▲關學學生部研究会▲神戸商大學生部研究会
- 廿六日 ▲山本氏講演會(東大學生部) ▲和歌山高商學生部討論會
- 廿七日 ▲關東聯合研究發表會(學生部) ▲北田・谷川兩氏講演會(學生部横濱聯合會)
- 廿九日 ▲河崎氏談話會(婦人部)
- 三十日 ▲神戸商大學生部研究会

〔七月〕

- 一日 ▲「外交評論」七月號刊行▲「世界と我等」七月號刊行▲大阪外語學生部研究会
- 二日 ▲關東學院學生部討論會▲關學學生部研究会
- 三日 ▲第廿一回評議員會▲婦人部研究会▲神川教授演習(東大學生部)
- 四日 ▲學生部座談會(神戸支部)
- 六日 ▲第廿二回通常總會▲婦人部第十一回總會▲第十八回全國支部長會議▲「日本外政協會會務報告」(十六年度)刊行▲明大學生部研究会
- 七日 ▲市河氏午餐談話會▲横田教授演習(東大學生部)▲淺香氏の講演會(大阪外語

- 學生部)
- 八日 ▲市河氏講演會(東大學生部)
- 九日 ▲佐藤氏講演會(關東學院學生部) ▲關學學生部研究会
- 十日 ▲明大學生部研究会▲神川教授演習(東大學生部)
- 十三日 ▲安東氏午餐談話會
- 十四日 ▲明大學生部研究会
- 十五日 ▲婦人部研究会▲米田氏座談會(明大學生部)
- 十六日 ▲竹中氏講演會(關學學生部)
- 十七日 ▲神川教授演習(東大學生部)
- 十九日 ▲時局問題講演旅行(五日間・高岡高商學生部)

- 廿一日 ▲柳澤氏午餐談話會
  - 廿二日 ▲堀氏講演會(函館支部) ▲關學學生部座談會
  - 廿三日 ▲關學學生部研究会
  - 廿四日 ▲關學學生部研究会
  - 廿五日 ▲關學學生部研究会
  - 廿七日 ▲第三回外交懇談會▲關學學生部研究会
  - 三十日 ▲第五五回特別調查委員會
  - 卅一日 ▲「條約改正關係大日本外交文書」(第二卷)刊行
- 〔八月〕
- 一日 ▲「外交評論」八月號刊行▲「世界と我等」八月號刊行
  - 四日 ▲廣瀬氏講演會(名古屋

屋支部) ▲關東學院學生部討論會  
廿五日 ▲太平洋問題調查部協議員會  
廿七日 ▲大阪外語學生部研究會  
卅一日 ▲「米國政治外交史」(上卷)刊行

〔九月〕

一日 ▲「外交評論」九月號刊行 ▲「世界と我等」九月號刊行  
九日 ▲婦人部研究會  
十日 ▲吉井氏講演會(東京文理大學生部)  
十一日 ▲內山氏午餐談話會  
十二日 ▲朝海氏懇談會(函

館支部)

十三日 ▲米田氏座談會(明大學生部)  
十六日 ▲太平洋問題調查部歡迎懇談會▲堀内・高垣兩氏懇談會(福島市)  
十七日 ▲堀内・高垣兩氏懇談會(仙臺市)  
十八日 ▲堀内・高垣兩氏懇談會及講演會(盛岡市)  
十九日 ▲山田女史の談話會(婦人部)▲堀内・高垣兩氏懇談會(青森市)  
二十日 ▲「日本及び濠洲間の政治經濟關係」刊行▲堀内・高垣兩氏懇談會(五所川原町)  
廿一日 ▲堀内・高垣兩氏懇談會及講演會(弘前市)

廿二日

▲堀内・高垣兩氏懇談會(秋田市)  
廿三日 ▲堀内・高垣兩氏懇談會(山形市)  
廿五日 ▲婦人部の研究會▲第五六回特別調查委員會▲堀内・高垣兩氏懇談會及講演會(米澤市)▲米田氏座談會(明大學生部)  
廿六日 ▲堀内・高垣兩氏懇談會(郡山市)  
廿八日 ▲大野氏時局問題午餐談話會  
廿九日 ▲第四回外交懇談會  
▲大阪外語學生部研究會

〔十月〕

一日 ▲「外交評論」十月號刊

行) ▲「世界と我等」十月號刊行  
二日 ▲婦人部研究會▲大阪外語學生部研究會  
五日 ▲矢野氏午餐談話會  
六日 ▲大阪外語學生部研究會  
九日 ▲香西氏懇談會(島根支部)▲小林氏講演會(東京商大豫科學生部)  
十日 ▲明大學生部研究會  
十一日 ▲早大學生部研究會  
十二日 ▲野口氏講演會(函館支部)▲大阪外語學生部研究會  
十三日 ▲關學學生部研究會  
十四日 ▲慶應學生部研究會  
十五日 ▲明大學生部研究會  
▲關東學院學生部研究會

十九日 ▲黒木氏午餐談話會  
▲伊藤氏講演會(東北大學生部)  
二十日 ▲關學學生部研究會  
▲大阪外語學生部研究會  
廿一日 ▲藤井氏座談會(神戸商大學生部)  
廿二日 ▲第五七回特別調查委員會▲關東學院學生部研究會▲關學學生部研究會  
廿三日 ▲明大學生部研究會  
▲永井氏講演會(東大學生部)  
廿四日 ▲第八一回關東聯合會例會(學生部)  
廿五日 ▲學生部關西聯合研究發表會  
廿六日 ▲第五回外交懇談會  
廿七日 ▲稻原氏座談會(明

大學生部) ▲大阪外語學生部研究會  
廿八日 ▲天羽氏講演會(東京商大學生部)  
廿九日 ▲黒木氏談話會(婦人部)  
三十日 ▲井口氏午餐談話會  
▲神戸商大學生部研究會

〔十一月〕

一日 ▲「外交評論」十一月號刊行 ▲「世界と我等」十一月號刊行  
四日 ▲慶應豫科學生部研究會▲關東學院學生部討論會▲林氏講演會(大阪外語學生部)  
五日 ▲堀内・朝海・松井・鈴木諸氏懇談會及講演會(新潟

市) ▲井口氏講演會(東京商大學生部)  
 六日 ▲堀内他三氏懇談會及講演會(長岡市)  
 七日 ▲堀内他三氏懇談會及講演會(長野市) ▲神戸商大學生部研究會  
 八日 ▲石橋氏講演會(鳥取支部)  
 九日 ▲河相氏午餐談話會 ▲堀内他三氏懇談會(富山市)  
 十日 ▲堀内他三氏懇談會及講演會(高岡市) ▲神戸高商學生部討論會  
 十一日 ▲堀内他三氏講演會(高岡高商) ▲堀内他三氏懇談會(金澤) ▲明大學生部討論會  
 十二日 ▲慶應豫科學生部研究會 ▲酒枝・中河兩氏講演會(關東學院學生部)  
 十三日 ▲吉澤氏午餐談話會 ▲堀内他三氏懇談會及講演會(福井市) ▲時局展覽會(五日間・關學學生部) ▲神戸商大學生部研究會 ▲大阪外語學生部研究會 ▲谷口氏講演會(神戸高商學生部)  
 十四日 ▲堀内他三氏講演會(敦賀市)  
 十六日 ▲婦人部協議會 ▲高木・細川兩氏講演會(名古屋支部) ▲英・堀田兩氏講演會(慶應學生部) ▲青學學生部研究會 ▲古川氏講演會(神戸商大學生部)  
 十七日 ▲田村氏午餐談話會  
 十八日 ▲慶應豫科學生部研究會 ▲永井氏講演會(青學學生部) ▲高谷氏講演會(關東學院學生部)  
 十九日 ▲慶應豫科學生部研究會  
 二十日 ▲婦人部研究會 ▲英氏講演會(慶應學生部) ▲神戸商大學生部研究會  
 廿一日 ▲明大學生部討論會 ▲關東學院學生部研究會 ▲關學學生部研究會  
 廿二日 ▲學生關西聯合大會  
 廿四日 ▲第六回外交懇談會 ▲青學學生部研究會 ▲森田氏座談會(關學學生部)  
 廿五日 ▲第五八回特別調查委員會 ▲青學學生部研究會

前芝氏の講演會(大阪外語學生部) ▲神戸高商學生部研究會  
 廿六日 ▲田村氏談話會(婦人部)  
 廿七日 ▲婦人部研究會 ▲慶應學生部研究會  
 廿八日 ▲建川・米田兩氏講演會(明大學生部) ▲建川氏座談會(明大學生部) ▲青學學生部研究會  
 [十二月]  
 一日 ▲「外交評論」十二月號刊行 ▲「世界と我等」十二月號刊行 ▲野村氏座談會(東大學生部) ▲神戸高商學生部研究會  
 二日 ▲英氏座談會(慶應學生部)  
 四日 ▲慶應學生部研究會 ▲志賀・酒井兩氏講演會(關學學生部)  
 五日 ▲第八二回關東聯合會例會(學生部)  
 六日 ▲學生部關西聯合總務委員會  
 七日 ▲宮川氏午餐談話會 ▲神戸高商學生部研究會  
 八日 ▲「太陽」刊行(和歌山支部)  
 九日 ▲婦人部研究會  
 十日 ▲安井助教演習(東大學生部)  
 十一日 ▲明大學生部研究會 ▲吉田・大江兩氏講演會(關學學生部)  
 十二日 ▲函館支部總會  
 十五日 ▲關學學生部研究會  
 十六日 ▲宮川氏談話會(婦人部)  
 十八日 ▲天野氏講演會(鳥取支部) ▲赤坂氏講演會(關學支部)  
 廿一日 ▲第一八五回理事會 ▲婦人部研究會 ▲關學學生部研究會  
 廿三日 ▲森氏午餐談話會  
 廿四日 ▲第五九回特別調查委員會  
 [昭和十八年一月]  
 一日 ▲「外交評論」一月號刊行 ▲「世界と我等」二月號刊行

十二日 ▲關學學生部研究會  
十四日 ▲慶應豫科學生部研究會

十六日 ▲南方事情女性講座  
(婦人部)

十九日 ▲與謝野氏午餐談話  
會▲「昭和十五年の國際情勢」  
刊行

廿一日 ▲宮川氏座談會(東  
大學生部)

廿三日 ▲南方事情女性講座  
(婦人部)

廿六日 ▲第六〇回特別調查  
委員會▲關學學生部時局問題  
研究會

廿九日 ▲第七回外交懇談會  
三十日 ▲南方事情女性講座  
(婦人部)

〔二月〕

一日 ▲「外交評論」二月號刊  
行▲「世界と我等」二月號刊行

▲多田氏講演會(神戸支部)  
二日 ▲秋山氏午餐談話會▲  
植田氏座談會(東大學生部)▲  
福井氏講演會(關學學生部)

三日 ▲關學學生部研究會  
四日 ▲關學學生部研究會  
五日 ▲關東學生部指導教授  
會議

六日 ▲婦人部南方事情女性  
講座▲芳澤氏座談會(東大學  
生部)▲神戸高商學生部座談  
會

八日 ▲太平洋問題調查部協  
議員會▲内山氏講演會(神戸

高商學生部)

九日 ▲關學學生部研究會

十三日 ▲南方事情女性講座  
(婦人部)

十五日 ▲土岐氏座談會(神  
戶高商學生部)

十六日 ▲第六一回特別調查  
委員會▲關學學生部研究會

十七日 ▲關學學生部研究會

十八日 ▲「東印度農業經濟  
研究」刊行▼關學學生部研究  
會

十九日 ▲慶應學生部研究會  
二十日 ▲山崎氏座談會(早  
大學生部)▲神戸高商學生部  
研究會

廿三日 ▲第八回外交懇談會  
▲井口氏懇談會(函館支部)

廿四日 ▲鈴木氏午餐談話會  
廿五日 ▲婦人部研究會▲安  
井氏座談會(東大學生部)  
廿六日 ▲神戸高商學生部座  
談會

廿七日 ▲堀内氏座談會及講  
演會(早大學生部)▲日滿華學  
生交歡會(東北大學生部)

〔三月〕

一日 ▲「外交評論」三月號刊  
行▲「世界と我等」三月號刊行

▲神戸高商學生部研究會  
二日 ▲北田氏懇談會(和歌  
山支部)

三日 ▲北田氏懇談會(大阪  
支部)

四日 ▲神戸支部總會▲北田

氏講演會(神戸支部)▲松下氏  
座談會(東大學生部)

五日 ▲婦人部研究會▲貝原  
氏講演會(明學學生部)

九日 ▲前田氏午餐談話會  
十二日 ▲「大東亞共榮圈と  
中南米」刊行

十五日 ▲第一八五回理事會  
十七日 ▲坂西女史の談話會  
(婦人部)

十八日 ▲大川氏講演會(東  
大學生部)

十九日 ▲太平洋問題調查部  
協議員會▲婦人部研究會▲久  
保田氏午餐談話會

廿五日 ▲「大東亞講座テキ  
スト」刊行▲學生春季大學・  
大東亞講座開講(五日間)

廿九日 ▲第六二回特別調查  
委員會

三十日 ▲調查部調書第一號  
刊行

卅一日 ▲「日泰關係と山田  
長政」刊行



社團法人 日本外政協會新役員 (イロハ順)

會長  
副會長  
專務理事  
副會長  
理事

有田八郎  
堀內謙介  
澁澤敬三  
井口貞夫  
堀切善次郎  
堀切善次郎  
本間雅晴  
吉岡彌生  
高柳賢三  
高木陸郎  
竹內新平  
向井忠晴

陸軍中將

子爵

公

理事

伯爵

古田俊之助  
二荒芳德  
船田一雄  
船田廉中  
澤田廉三  
左近司政三  
北田正元  
三樹三  
島居庄藏  
有吉忠一  
江口定條  
柳田誠二郎

監事

海軍中將

會計監督

91  
509

「告報務會會協政外本日」

度年七十和昭

昭和十八年五月十一日印刷  
昭和十八年五月十四日發行

非賣品

編輯兼 發行人 堀 内 謙 介

印刷人 中 島 久

印刷所 東京市芝區濱松町四丁目五番地

東京市芝區濱松町四丁目五番地

發行所 東京市麴町區丸の内二ノ十二  
社団法人 日本外政協會

振替東京五五一八三番  
電話丸の内四六六四

